Sept 1892
no. 326-2

女學雜誌

第三百二拾六號

乙の巻

注意

○社説　情交の辨

○雜錄　避暑(ひさご)○茶話會(序)。いけない奴だと叩く。洗濯の大助け。物干の綱の竿。男の兒と女の童。婦女子の集會。年寄の安心

○文藝　新習字法○習字二個の目的○作文に要する二要素○問答(女の子の讀本作者。雛嫁の元作者。どうして文學者になれます。

○論説　日本に於ける基督教主義の學校の目的如何

○家政　小兒に玉蜀黍○家庭の養鷄○子供と醫者○つや消しガラス家内製法

○史傳　新來の客ウエスト孃

○摘要　女子の風儀○婦女問題に關する書籍○女子の大學に入るを許すの議及び女醫に就て○新内閣員の年齢○家禽の飼料○女子高等師範學校卒業生別

○批評　國民之友夏期附錄の評(雪峰子)○女報○孤兒の友

明治二十五年九月三日發兌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 326. SEPTEMBER 3rd. 1892.

EDITORIAL:

MISCELLANEOUS:—Away for the Summer Table-talk: (Do not Strike the Board that Hit the Child. A Great Help for the Washing. The Rope for the Bamboo Poles etc. etc.)

LITERATURE AND ART:—A New Style Penmanship. The Two Objects in Acquiring Proficiency in Penmanship. The Two Important Elements in a Good Composition. Questions and Answers.

LEADING ARTICLES:—What is the Object of the Christian Girls' Schools in Japan.

THE HOUSEHOLD:—The Indian Corn for the Children. Poultry in a Small Scale. The Children and the Doctor. Now to Glaze Window Panes at Home.

BYOGRAPICAL:—Miss West the New Guest from America.

HERE AND THERE:

CRITICAL NOTES.

本號(第三百廿六號)目次

○社說　情交の辨　（乙）

○雜錄　避暑(ひさご)○茶話會（序)。いけない奴ださて叩く。洗濯の大助け。物干の綱の竿。男の兒さ女の童。婦女子の集會。年寄の安心

○文藝　新習字法○習字二個の目的○作文に要する二要素○問答（女の子の讀本作者。離嫁の元作者。どうして文學者になれます。

○論說　日本に於ける基督教主義女學校の目的如何

○家政　小兒に玉蜀黍○家庭の養鷄○子供さ醫者○つや消しガラス家內製法

○史傳　新來の客ウエスト孃

○摘要　女子の風儀○婦女問題に關する書籍○女子の大學に入るを許すの議及び女醫に就て○新內閣員の年齡○家禽の飼料○女子高等師範學校卒業生別

○批評　國民の友夏期附錄の評（雲峰子）○女報

前週(第三百廿六號)白表

●社說　各地の青年會に檄す○孤兒院の事業及び救養(獻身者。注意す可き問題)

●批評　晩近の人物短評（評作家いろ〳〵)。春畝先生に與ふ。歷史家さしての新井白石。德川家康。大臣月旦。一休和尙○文學一斑(透谷子)○桂園叢書(雲峯生)○新日本史○家庭雜誌○新思海

●雜錄　天地管見(人物の理想。ユーモアの淸潔。正當なる自修鍛練)○續禪窟雜感（白骨の人先づ現はる。三女等の顏入來る。泣かしむる人懸來る。夢に武器を得たり。漸やく興味の境に入る。禪僧厭世の色なし。坐禪堂の觀。禪宗臨濟派の教旨。居士號を與へらる。)

●小說　人さま〴〵(二)さむらひ（若松しづ子譯)

●摘要　地租一分を賣却して公債を償却すべし○日本初期の傳道○大學總長板垣伯○九鬼氏洋風技術を排斥せし例證及び美術保護論

●寄書　故山の日(日本の一學生)

●片々　九州夏期學校の概況

前々週(第三百廿五號)赤表

○社說　情交の辨（上）

○兒監　我宿の花（若松しづ子)

○雜錄　支那婦人の婚姻○祝歌一首（雲峯子）○花を散らすダホミーの女軍

○批評　高等小學女子習字帖○明治政史○桂園叢書○文學一斑

○家政　家庭の養鷄

○史傳　加賀千代女○矢部まき子

○論說

○時事　海水浴○溫泉場の仕切り○洪水○女子參政權

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第三百廿六號　明治二十五年九月三日發兌

社説

情交の辨（乙）

月の圓かなる、花の悉とく開きたるをのみ、風情と言はんや。眉の如き纎月、雲を殺ぎて銀色を漏らしたる、被衣もて覆面したる蕾、やさしき温天に微かの笑を呈はしたるなんど、趣き言はんかたなく麗はし。左れば、眞とに風流を知れる人は、月に雲なく、花に風なきをのみ好しとせず。仲秋の夜、玉樓に上らずして、藁屋の破れ障子を尋ね、墨陀の花のさかり、山莊に隱れて濁塵に遠ざかる。彼の松島の美を觀て直ちに句を覔め、富士の高峯に心躍りて早く土足を着けんとするは、文士の優しき情を味はざるの徒なり。田婦野人の好みは之に異なる。彼等は芳香の床しきに心迷はず、豚の脂の津々たるに喉を鳴らす。其裳は火の如く紅からんことを祈り、其衣は花の如く綺羅びやかならんことを欲す。其情を語るや、皮を剝ぎ、肉を割り、骨を露はすに至らずば滿足せず。沈靜せる靈の上の情交は其あき足らずとする所ろにして、必らずや之を肉慾の上に施こさずんば止まず。所云る死后に百年の樂しみあらんよりは、生前に一杯の酒を傾むくるに若かずとは言ふ也。かゝる族の戀愛は、士君子が嘔吐して、言ふだに能はざる所ろのもの也。

文明の世の貴女、紳士、冀はくは彼の野人田婦に傚ふなかれ。雜々しくして誠なく、言葉多くして實のなきは、君子の恥づる所ろにあらずや。夫れ徒らに情を殺し、只暴りに心の誠を害するは、宜しからずと雖ども、彼の飴の甘たるきが如く、脂のひつこきが如く、瓢簞の締りなきが如く、下郎の口說くが如く、女郎の諂らふが如き躰裁を爲すに至りては、心ある人、何ものか顰蹙せざらん。然るに、此の卑猥下等なる仕打に「西洋風」と云へる名を冠らせ、以て一時の醜を掩はんとするに至りては、苦笑、堪ゆべからず。

吾黨は一々西洋風を可とするものにあらず、情交の一點に於て寧ろ保守的の傾向を執りたるとは、年來の讀者が諒知せらる所ろなるべし。故に吾黨は事々に西洋風を辨護せんとする

ものにもあらず。然れども、西洋風の中には、多くの文明風を含めりと知る。文明風の眞なるものは、吾黨が速かに我國に流行せしめんことを欲するものなれば、時に一應の辨護を爲さずんばある可らず。

西洋風に於て戀愛の事を屢ば口にするは事實なり。此の事實必らずしも惡しきにはあらず。我國に於ては、從來むしろ戀愛を惡しきもの丶如く解釋したり、故に戀愛の事を公けに口にするは奇怪なりとせり。西洋に於ては、戀愛を見て、美しきものとせり、故に戀愛の事を公けに口にするを恥とせざりき。之れ何れか正しき。

思ふに、戀愛は、其性質に於て最と美しきものなり。戀愛とは獻身の情なり。卑しき戀愛は己れの爲にすれども、其眞なるものは、他の爲にす、己を擧げて全然他に與へんとするは、即はち戀愛の特質なり。こ丶に於てか、先づ品物を贈る、次に情を送る、最後に全身全靈を與ふるとも尚ほ足れりとせず。そは、持てるものを悉とく他に委ねざれば滿足せざるによる也。この念ひ豈に高からずや。滔々たる利己の世に於て、かかる最上の獻身を見る、戀愛は人の情の尤とも美なるものにあらずや。色このめ、色このめ、人に戀愛なきは玉の杯に底なきが如く、花の台に香なきにひとし。發しては、君臣の間の愛と忠となり、凝ては、父子間の慈と孝となり、友に於ては友情となり、國に於ては愛國心となる。安くんぞ男女間に現はる丶もの丶みを潔よからずとせんや。

左れば、戀愛そのものは潔白にして美しきものなり、之を公けに口にするは恥づべき事にあらず、操を守りて郎の爲に盡し、戀に情けを溢らして一生を漂よわすの類、彼の忠臣孝子に匹敵するものにして、一の美談となすべし。

左れど、茲に誤解す可らざる一の道理あることを忘る可らず。夫れ、他の人の忠孝義膽を宣揚賞贊するは、一の美德なりと云ふと雖ども、自から爲したる此等の行爲を自から吹聽するに至りては、何人も耳を覆ひて聞くに堪へずとせん。人の善事は郵を置て送るが如く速かに宣言し、自己の能事に至りては、庫の底に秘め置くが如くす、之を君子の心得となす。此心得は、强いて勉め爲すにはあらず、眞に然せざるを得ざる也。己が長所、美所を吾が目前にて賞めらる丶時は、赧顔に堪へず、穴あらば消も入りたき心地のするもの也。之を人

の自然なる優しき情とす。然るを況んや、自から敢て之を屋の上に廣告せんとす。面皮、鐵の如く、心情、氷の如しとこそ言ふべけれ。

左れば、男女間の戀愛の事も亦斯の如し。他人が、潔白至淸なる眞の戀愛を以て相交はりたるの美談あらば、之を人の前に宣揚することを恥づ可らず。是れ人の美事を崇敬するの一德なり。然れども、自己が心中に起りたる此等の情をむき出し、拙者は近頃かく戀を致す、妾は此の程かく慕ひ侍るなど、告白せらるゝに至りては、何人か閉耳閉口せざるべき。夫れ、己が事を他人の前にて言ふは既に不可なり、之を直接に關係したる人の目前にて言ふに至ては、いよ／＼情けなしと云ふべし。然るに、戀愛の情を包むは、花の蕾の恥かし氣なる、月の眉を細くして雲の間だに隱顯する趣きあるにも似ず、即直、御當人の前にて意中の深情を白露するが如き處作こそ、かへす／＼も賴母しからぬ心得なれ。

此故に、戀愛の事を公けに言ふと、自己が戀愛の情を他にむき出しにするとは別事なり。世人之を混ずるなかれ。之を混ずるによりて玉石を共に火き、古來の誤を善きことに思ひて、新しき美風に移ることなし、歎ぜざる可らず。日本古來の武士風にて、死すとも吾が戀愛を深く藏し、容易に人に示さず、若し其敵に合はずんば、百年の忠を懷き、天を仰いで打死すとも、其秘事を輕々しく口外せざるの氣節は麗はしき所ろあり、斷じて徒らに失ふ可らず。然れども、電氣一通、音信すでに應答し、茲に伉儷和樂の交らひを結びたる曉、其至眞の情を示して行爲に現はすの樂しみを、只だ俗論を憚かるが爲めに遠慮用捨するは寧ろ卑怯なりとす。更に又、他人の戀愛の事を賞揚する能はざるに至りては、愚なりとす。

吾黨は、ほゞ戀愛告白の一理を正解したりと信ず。二箇の僻見、東西の片すみに入り、互に偏して固陋の見解を鬪はす。吾黨は其の双つ乍ら當を失することを辨じたり。古來の弊習を握るものと、新風俗の誤を抓むものと、共に愚なり。万づの事、極端に走るべからず。中を取りて、程の宜しきを得たるこそ床しけれ。眞理は大抵、中間に在て存す。

終に臨みては、吾黨、近來の小說作家に切望して、其の戀愛告白の模樣を寫すの筆に猛戒を乞はざる可らず。近頃の小說中の主人公は、何ぞ田婦野人に似たるもの丶み多き。其の情

交は、田舍の若い者と、赤裳の娘との情交なり。其間に行わる可き談話を詮じ來れば、左の如し、

私は、アナタを愛します、本當に慕ひます。

夫は、有難く侍るです、御承知致し升た。

然らばエンゲージします、何月何日に婚姻します。

チルガン鳴る、フロックコート飾る、目出度し〳〵。

若し大意を約すれば、右の外に出でずと信ず。近來の傑作、「奴の小万」に於ける、小太郎、及び、お万の間柄として寫されたるもの丶如きは、實に出色なりとす。

小說家諸君。諸君は多く西洋の院本稗史を讀破せられたるならん、何んぞ其傑作中に多き男女間眞戀愛の正粹を摘まずして、多くの誤解を與ふべき外形の言語にのみ倣はんとせらるる乎。西洋上乘の小說中に於ける主人公は、田婦野人の情交を爲さず、優にして奧床しき所ろ、恍として吾等を眩せしむるもの多きにあらずや。諸君、何んぞ之を利用せずして、反つて彼を悪用するや。

ミス、プロクターは、意中の人を衷心に秘め置き、南窻花下に胡蝶を恨み、夕ぐれに獨り幻想を味ひて慰さめたるの人か。年若く詩才を土中に葬むりて遂に戀愛の人を語らざりき。然れども、其吟咏の長久に存するもの、彼の戀思愛慕して獨り苦吟する人に同情を表し、他人が慰さむる如くならず、實に同地位同事情に立てる人の如く慰さむるものあるを見れば、此の女詩人中のボルンズたる、可憐孃が深情、ほゞ察することを得べし。

父母を失ひたる二人の同胞ありけり。遺命を奉じて、姉は、其弟を世話す。終生、弟兄の傍に居て之が安慰とならんとて、嘗ては、其生命の如かりし戀思の郎君を謝絶し、只だ胸中に之を畜きて、實行には弟兄の爲に之を施こす。而して、弟兄成長して、此邊の消息を知らず、年來り、投合の人ありて、花孃其妻となり、朝々夕々の安慰、及び其病床、臨終の看護皆な此婦人の手に屬し、姉は空然として獨り住ひ、愛思を寄する所なくして寂居す。あゝ前年の郎はすでに土中に眠れり。此時に於ける彼女が心衷何如ん、プロクター能く之を畫けり。

棄られたる一女あり、之を拾ひて妹の如くせる貞淑の乙女ありけり。此の姉妹たとへば、梅と桃の如し、高潔と豐艶と各

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

自、趣を異にす。若才子アーサー、之に往來して姉妹に交はり、共に棄てがたしとし、梅と桃と共に此の飛蝶を想ふ。アーサー、善く擇べり。彼は高潔にして貞淑なる長姉に向つて一生を與へんとを決意し、將に此意を輸たさんとする時、姉は思へらく、之れ吾が幸にして妹の不幸なり、吾は尙ほ忍ぶべし、彼の孤兒の一生は此の温良君子に托せしむるに若かずと。彼は其情を殺ろし、死せるものとなりて郎を斥ぞけ、或日家出して行く所を秘くしぬ。郎は遂に妹氏を娶ると雖も、徽雲屢ばアーサーが心を覆ひ、彼をして數たび亡跡の人を追想せしめたり。妹氏平ならず恨思して遂に死す。死に臨みて遺子に言すらく、妾なからんのち、吾姉來りて御身等が母となるともあらん、御身等之を母として思ふなかれ、母は今より土中にありと知れと。保姆亦た此意を躰して、幼兒を訓育したり。アーサー、鬱悒慰さむる所なし、嘗て伊太利の風光に思ひを沈めて偶然亡跡の姉に會し、妹氏の死を告げてより万事白晝の如し。彼は彼女を伴なつて歸り、寺院の鐘ひいき、婚儀了はる。新婦は幼兒を抱いて言はく、愛すべき幼兒よ、之より妾を母とせよと。和兒は遺命を守るの孝子たらんとし、猛然として曰く、吾母は土中に居ますと。あゝ、此の貞淑なる婦人が戀愛は、亦プロクターが尤とも眞實に寫す所ろなりとす。

「雛嫁」を娶り、「雛嫁」を失なひたる、デービド、カパフヒールドは、之を其姉としたるアグネスに一々打語らひて、其初戀と、其失望とを隱す所なく告げたりき。安んぞ知らん、此の姉の如くして多年彼を看護したる一婦人は、長年の戀人ならんとは。此戀人は、其生命の如き一男兒が、他の女子を愛すと云へる告白を聞きて其婚儀を勸め、其失望を聞きては死者の爲に慰さめたり。彼女が心中の寸斷々々は、ヂッケンス翁巧みに之を寫せり。

あゝ此類何ぞ擧げ盡すに堪へん。吾黨は、目前の一事實を記載して、無限の感慨に終結を命ずべし。

今は老ひたる一西洋婦人あり。嘗て或る男子と契約し、交情温かにして春の日の麗らかなるが如く、鳥舞ひ花咲ふ語らひ盡すべくもあらず。秋の夕べは最としめやかに暮らして、來し方、ゆく末の談緒斷つとも切れず。凜烈たる雪の如き氣節に、溶然たる東風を薫し、親しみて亂れず、如何にも見事な

る潔白濃厚の情交にてありき。然るに、學ぶ所ろ知識を變へて、双方少しく宗教上の意見を異にし、男子は式儀を重んずる方に、女子は自由を重んずる方に傾むきたり。理性、情思と鬪ひて久しく鬱結せしが、眞理は情の爲に曲ぐ可らずとて、斷然各自の信ずる所ろに行き、双方やゝ宗派を別にするに至りき。女、思へらく、宗教上の見解は、人間最上の要所なり、もし此の處ろに於て些さかにて相違ふあらば、二身一躰の和樂を爲すに於て、快合せざるとあるべし。自己は暫らく忍ぶも可なり、郎が一生を不快にす可らずとて、裁然決意し、熱情を壓し、情緒を斷切して、遂に契約を解きぬ。

爾來經過すると數十年、彼の女は今や吾黨の知人となり、現に獨身清淨の暮しを爲せり。

彼女、今や五十余才、其裝ほひを見れば、極めて淡泊にして且つ雄々し。たゞ頭上、時あつてか、造りたる一細花を挿むに、其色紅くして目立つ。あゝ是れ未婚の人の名殘りか。其書齋に入れて見れば、正面に壯年男子の大ひなる寫眞あり、數十年前の彼の友なりと云ふ。此友、今や白髮、其の子孫爐邊に之を圍むとなきや何如ん。下に、大ひなる洋琴一脚を置く。此は之れ彼の友が昔し別れに臨て贈りたるものと云ふ。之を拭ひ清むるとに、手を盡せしならめ、外躰色澤ありて古りたりとはみえず。左れど、試に盖を去つて一彈すれば、弦線、ぬしの心を知りてか、所々斷つ、音調、律呂を失して、聲轉たさびし。

雜録

避暑

ひさご

一日父君と共に大宮へ旅立ぬ、外めづらしき身の上野迄かちにてと乞つれどゆるしたまはで、車はしらせて停車場へ行つきぬ、この停車場なん目なれぬ田舍人のかつ去かつつどふが數多にて、顏かたちの田舍めきたるさまもゆかしくしばしだにかれらを友とせばやとて下等にのりて行、一人ことにめとどめられたる田翁米の作不作、二百十日の事、浦和の玉藏院にきのふ今日ある施餓鬼に人のあまた出る事、滊車を動かす役人の働のゑらき事などたれをも友としてかたるうれしとも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

うれし、この翁には浦和にわかれて淋しく成ぬとおもふうちに大宮へつきぬ、いでこれよりこそかちにてと蟬の聲よりかしましき車夫を斥けて町をはなれ、おもひ出ればいづくをさしていか斗行ならん、けふをはじめなれば行へしられず、彳づみし時、南北の空打曇り、かみさへおどろ／＼しうなり出ぬ、あなおそろしとちゝの側につとよりてはるかにあふぎつゝ

母やいかに都の空になるかみの
音も聞えて雲きほふなり

わがつねにおそるゝをさこそは彼方にもとて

なく蟬の聲も涼しく成にけり
よそに過行夕立の雨

かくとはしらで、あだし心をなやまさせ給ふらんといひつゝ又行と行に漸く鳥居の前へいたりぬ、これより八町斗ゆきて三沼てふ公園のうちのけしきよき地へ出ぬ、廣うしなしたる所にて紅白の蓮花今盛也

はからずもおもはぬ花をみつるかな
みぬまはかくときかで過しを

沼をめぐりて木陰に塵つもる松のふる葉ふみしだきつゝ山を少しのぼりて萬松樓へ休みぬ、父君懐紙取出でたまひて

綠樹交柯古廟幽　襲人嵐氣冷如秋　怪他
城裏趨炎客　還向此間試一游

和韻にてもせよ、よきになほして得さすべきにとのたまへどようせぬ事なればやゝ口なれしかたにてとてつたなけれどみせまゐらせぬ

みやこ人こゝにつどひてしばしだに
よのあつけさを忘れんとすらん

この家のうらにしら糸を百すぢ斗合せたらん如き瀧ありかしらをひたすに心地よき事限りなし

この秋の紅葉のころに又もこむ
ながるゝ瀧の糸にひかれて

夕日も入ぬいざやとこの瀧のもとに父のせきたてたまへればさのみはとて立ぬれどなほ心のこりてかへりみる時日ぐらしのこゑすゞしう鳴出ぬ

大宮へ行し日のあさて父君と共に又池上の光明館へとて出立ぬ、この前の日より胸の先いたみてものもまゐらざりしかば、

湯に入ればかしら熱してくるしうかの大宮の瀧のさまもおもひ出でられぬ

瀧の音は耳にのこりて今日更に
むねにひゞくは何にかあるらん

胸安からでくるしく夕つかた大森の停車場に發車をまちて踏切の柵によりつゝ、先なき月のくろき森の梢に入さまもものかなしくうちみやりて

にしの空にかたふきかゝる月をみて
こゝろ細さもそはりけるかな

あすは又まどかなるべき月のことと
人の行ゑもあらまほしけれ

常とのめる海も山もめに入らでさま〴〵におもひみだれふと品川の沖をみればはるかに舟一ツたゞよひたり

しな川の沖にたゞよふ捨小舟
たがこぎすてしあはれよの中

みる限りのもの涙の種ならぬはなし、念ずれど念ずれど目にたまる涙を人にしられじとするもくるしくかつはかひなき身をくひて

何故になどかくなげく我身ぞと
わがもしとはゞいかゞこたへん

茶話會

石翁輯

經驗は生ける學問なれば、何人も之を重んずべき也。されど、吾一人の經驗は、多くありと云ふとも額の知れたるものなり。五十年を生き、五大洲をめぐるとも、何ほどの事かあらん。故に、人は互ひに其經驗を語り合ひ、相助けて、其經驗の庫を大きくすべし。俄かに富權者となるの方なり。此紙上、かゝる有志の人に一席を貸し、其の茶話會に便りす。別に茶を出さゞれば、さして煩はしきとなし。御遠慮なく、續々お談しあれかし。

（一）いけない奴だとて叩く

子供が、誤まつて机や台などに頭まを衝き當てますと、其の喧ましく泣くを制めんとて、母親は逸早く、其の衝き當てたる處ろを叩き、

この机は、いけない奴だ、サ、こう〳〵、ぶつてやる

と言ひて、三つ四つも續け撃にし、夫を腹醫せに、子供の泣くをまぎらかします。

之は甚はだ宜しく無い敎え方です、斯樣な敎え方を致しますゆえ、其子供はつい人をぶつやうに成ます。もし、自分の頭まを誤まつて衝き當てたならば、たとひ向ふが机にしろ、台にしろ、「之は痛かつたろう」と言つて撫でてやるやうにさせ、之でまぎれると言ふやうに敎え込まねば成りませぬ。

兎角、母親の心得の無い所ろより、自分で惡しきことを子供に敎えて置ながら、其子供が他日之を復習すると、恐ろしく叱ります。譯の分らぬことです。

子供の言葉遣ひの惡しきは、母親に眞似るのです、子供の優しくないのも夫です。現に、子供に打つことを敎えて置いて、之に心切になれと所望するは、山に向つて海を求めるより尙ほ無理なことです。

（二）洗濯の大助け

洗濯をするに、今以て昔しのまゝに成さる方の多きは、極々簡易な道具のあることを御存知ないからでせう。夫を御存知の方には、申すも可笑しいやうですが、彼の洗濯板を使ふのです。洗濯板とは、巾一尺位ひ、長さ二三尺の厚い板に、波を彫り込み（波の角は成るべく三角にする）たるもので、之を斜に立てゝ其上で洗濯物にシャボンをつけながら、こすりたり又もんだりするのです、手で揉んで洗ふより、力も入らず、時も省け、其上極奇麗に洗へます。尤とも手早きは、ソーダを入れた水で煮るのですが、之は品を惡るくしますから、餘り善いとも申されません。

（三）物干の綱の竿

干物をするにも、今以て竿を用ふることに定めて居らるゝ人の多きは、何故でしよう。竿の便利なこともありますが、大抵の時は、細引を樹々に繫ぎとめ引張つて、之に掛けるが重寶です。

（四）男の兒と女の童

元寇紀念碑設立の發起者が、熱心に演說し、むかし蒙古十万の兵が攻め來りし時の景色を幻燈に寫し、すさまじき有樣を示したことがありました。之を二人の子に見せて連れて歸つた親が、試みにかう問ひました、

坊や、孃や、今晩のうつし畵のやうに異國から大勢が攻めて來た時には、お前方はどうおしだ、

七八歳の男子は、勇まし氣に直ぐ答へました、

坊は、石を投げてやります。

姉の十ばかりなるは、頻りに考へて居ましたが、此時顔を上げ、眞心あらはして申しまするには、

私は、泣てあやまりますワ、すれば、こらえてくれるでせう。

男女の氣性は、幼なき時より、斯く相違するものと實驗上、深く覺りました。

（五）婦女子の集會

女學校にせよ、婦人會にせよ、多くの婦人の集まつて居る所ろを監督する人は、何となう己れに反向ふかと思はれる樣な生徒や會員ある時は、ことに優待して近づけねば成ません。上に立つ人に反對する人は、下の人に極く優しいもので、即はち下の人の肩を持つのであります。此氣力無き人は、極く穩當にしていつも殊勝にして參りますから、自分には心持は好いですが、つまり爲になりません。自分の心に逆ふものを尤とも敬重優待して、其言ふ所ろの眞意をさぐると申す秘訣を心得置く時は、數多き自分の過ちも大抵は分ります、分りさへすれば改める階梯ともなります。

（六）年寄の安心

老人を安心させる一つの法は、其くりかへし、まきかへし、くど〳〵しく、ひつこく同じ事を重ねる長談議を、只だはい〳〵と丁寧に聞くのです。これほど安心して氣の落付くとは無いと老人がつねに申しましたが、自分も追々と其譯が分つて來ました。

文藝

みどり輯

○新習字法

岡田起作氏の新習字法は、曩に第二百五十九號及び二百八十三號に解明せり、所々にて其敎授を受けたる人の語る所ろを聞くに、進歩殊の外早く、久しからずして達筆となるとぞ、職業女學校の類にて若し此の法に據ば、一層の便利あるべしと思はる。明治女學校は、同氏の敎授法を初めて試用したる

となるが、曩の日、下の如き禮狀を送りたりとぞ、

前年貴君新習字法の説明を聞き感歎不能措頗る重服致候處尙之を本校書生に試敎し其實蹟を擧示被成度御懇望に付芳志に任せ去廿四年四月より當廿五年七月迄試敎を請候處成蹟顯著にして受敎者作字の進步驚く可きものあり一般書生も皆感謝して續々特志進學致候もの有之候は皆貴君が新法の良全なるとを證するものに候邦家斯道の爲に所祝候依て從來不淺の御盡力を謝し併せて爲斯道慶賀仕候

○習字二個の目的

文字を作るには、美術なりや否やの論あり、双方ともに理わりなきにあらず。之を美術とすると否とは、其人の心得何如によると云はん方こそ穩當ならめ。たゞ用務を辨ぜんが爲めに書く人は、實用を主旨とする也、もとより美術にはあらず。然れども、たゞ文字を書くが爲めに書き、其人の思想品格を現はすほどの雅趣を作るとを主旨とするは、既に美術なり。美術の爲めに作る文字は何如にも趣きあるべし、實用の爲にするものは、可成く簡易明白なるを可とす。二つを混じて、實用の爲にするものを、妙にひねり、早速に判讀しがたき樣に書き流す可らず。西洋人は、美術の主意を以て文字を書くなどの心得を有せず、只管らに實用の爲めにのみするが故に、其文字は尤とも明白なるを要とするもの也。然るに、近來は尙ほ之にても足れりとす、早印刷器械と云ふものを用ひ、手帋すら一々之にて認むるもの多し、讀者をして讀むに便ならしめんが爲め也。達筆をもて誇る我國の先生方、少しく戒しむる所ろなかる可らず。

○作文に要する二要素

文章は何如にして作るべきかと問ふ人多し、古へより文話、文則など云ふものありて、其規擧て盡す可らず、一朝にして、作文の訣は茲なりと指さし示すとを得んや。

されど、余が常に敎え子等に語る所ろは、第一に誠實なれと云ふとなり、何如に語を巧みにして章を綴るとも、一片誠實の氣を欠く時は、縷々の言も必竟女郎の佞辭に異ならじ。誠實にあらざれば、わが信ずる所ろを發揮する能はず、誠實にあらざれば、人を動かすと能はず、誠實にあらざれば人を服する能はず。何事にもよらず、此一事を欠けば生命なし、文章

に於ても亦然りとす。彼の感切り情熱したる時の文章が能く人に讀まるゝ所以のものは、之に誠實の充つるが故なり。手帋の文の著じるしく人を動かすも亦た此の理による。左れば文章を學ぶものは、先づ心を誠にするの工夫を練らざる可らず。或人は、文章を書く前に當りて必らず祈禱すと云へり。かゝる人の文章は定めし高潔にして且つ眞實なるべしと思はる。

誠實の次に工夫すべきは、美の思想を養なふとなり。之を養ふにも亦樣々の方途あると勿論なれど、先づ第一に、天地、山川、風景などの美を觀、其美を吸入するの工夫を爲すを肝要とす。頭らを擧げて山月を觀、首べを伏して流るゝ小川に臨めば、一輪、細波に映じて景色得も云ふ可らず。最と小さき野の花をながむるに、玆に奥妙の美は存す、空とぶ鳥、大空に墨をパラリと散らしたる如く舞ひ行く樣、俗腸を洗ひて心地比すべきものなし。凡そ、時に觸れ、折に際して、心を澄せば、天地の美一々之に映りて、心中其寫眞をとゞむ。されば、異日筆を握りて打そらんずるに、美の想湧くが如く、肺然、油然として起るものあり。凡そ、文章には、美の詩想滿ざる可らず。此想を欠きたる文章は、法律の如く、宣告の如く、蠟の如く、石の如し。嚙みて味ひなく、誦んじて、香りなし、人は、終り迄で讀過せざる也。

すでに、誠實の心根を基ひとし、美の詩想を以て流暢にせば、讀む人は、三歎して讀過し、識らずして之に眩せらる。省みれば、作者の心胸頭腦、之に乘うつり、我は不思議にも、作者と同感同情の人となり居るなり。文は玆に至りて、妙を得たりと云ふ。

女の子の爲に讀本小說を書いた人は、お尋のミス、アルコットの外に、名高き人々尚多くあり升。二つ三つを擧ますれば、Susan Coolidge; Mrs. Whitney; Sophie May; Mrs. Ewing. Horra Perry; Charlotte Yonge; Mrs. Molesworth などです。

「雛嫁」は序文にも在る如く、ヂツケンス翁の、デービドカッパフヒールトから取りましたので、之は翁の小說數多ある中、尤とも力を凝められましたものと傳へ升。翁が嘗て「私は此本の中に私が生涯の幾分かを入れて世の中に輸出するやうな心持がします」と言はれし如く、必竟、自分の經歷を寫されたものゆへ、取分け骨を折られ、心を熱して執筆されましたものでせう。（讀譚生と云ふ方へ）

どうして文學者にお成りなさるかと言ふとは、今少し精かに一身上の事さ、御好みなどを承われば、直ぐと申上げにくいです（無名氏君へ）

論説

日本に於る基督教主義女學校の目的如何（下）

大坂にて　B. D.

嘗て教育評論といへるものを見しに、公立學校の女子卒業生は之を男子に比して十二と一との割合なるべく、殊に彼等は皆優等の地位を占めたれば、女子の腦髓の男子に劣るといふ聲の殆ど聽えざるに至りしは怪しむに足らずといへり。博士エドワード、ジエンカーが「醫學上より女子の教育を論ず」といへる書に曰く、予は適當に腦力を勞することの人の健全を生ずることを深く信ぜり。予は青年女子が智育に適するや否やを論定するの暇あらず。そは反對論者のいふところ性の異なれるを以て高尚なる智育の適否を論ずるの範圍となすに過ぎざれば、現世記に得たる事實によりて女子の腦力を證するにあまりありといふべし。教育上大關係を有せる分子の三を數ふれば器量と傾向と健康なりと雖も、これらは皆天より成せる人の性に備れるものあれば、男女の區別を立てゝ論ずべきにあらず。われらは最早男子たるが故にかくの如く教へ女子たるが故にかくの如く教ゆといはず。たゞ男子にもせよ女子にもせよ其性質器量を見て其趣味傾向を察し、然る後に之を教ゆべきなり。國を思ひ同胞を思ふものは、一日も女子の教育をゆるがせにすべからざるに非ずやと。

近年「イオワ」大學の報告せしところによれば、千八百八十四年の頃全科を履める女學生一割四分なりしも、今七割九分の割合となり、殊に彼等の健康を害し腦髓を破るが如きことは絶てなしといへり。男生と女生との衛生上の比較を見るとも、女生の方反て男生に勝るもの多く、其腦力の比較表にては平均男子二十二に對する女子三十六なりといへり。三百年前佛國「チヨン」にては國手四名の建議により女子の「アルハベツト」を學ばざるべからざるよしを布告し、千八百八十二年米國「シカゴ」にては六百二人の青年（ともに女子あり）一週の間に高等の學校を出でたりといへり。嗚呼女子教育の大勢すでに斯の如し。たれか一日も之をゆるがせにすべけんや。あなかしこ。

經驗を買ふには最初高價を拂はざる可らず。

家政

○小兒に玉蜀黍

畜　耡　子

今は玉蜀黍盛佳の時なり、小兒は之を好みて喰ひ、又飽ことを知らず。玉蜀黍は頗る良好の食物なれども、是が種類の良惡と、食用の仕方を知らざれば大なる害あり、故に小兒を養育なさるゝ世の母親方へ、些か注意のため一言す。

我國在來の玉蜀黍は穀物としては兎も角も、之が生なるものを燒て食するは、小兒の軟弱なる腸胃に大なる害あり。其故は在來の種類は、洋種の如く糖分多からずして、糟粕多く其質甚だ固し、之を燒て喰ふは燒米を喰ふが如し、必ず腸胃を傷むべし。或地方にては是を小兒の毒物と謂ひなすも、其故なきにあらず。然ども余が信愛なる津田老農は、實に玉蜀黍は國益の親玉なりと唱道す、余も慥に斯く思ふ。されど津田翁の玉蜀黍說の我國に廣く行れざるは、蓋し世人が種類の撰擇と、其食用法に注意せざるに原因す。今簡便なる食用法を左に掲げ以て、其注意を請ふ。

玉蜀黍の種類多くして、早中晩種あり、洋種にして早熟なるはアーブル、ヘット、アーリー。クロスビー、アーリー等可なり、中熟はエヂプチアン。晩種はエバグリン。マープヘルッド、マンマス等又可なり。是等の種類を試作せられたし。之を食卓に上せむには、未熟にして穀粒を爪にて傷けて、乳汁の如く液躰なるころ田圃より採り來り、皮を剝ぐ時に三四枚の皮を殘して毛を去り、之を鍋釜に入れ適量の鹽を加へて湯煮すべし、程よきころ之を引上げて直に食すべし、斯すれば頗る美味にして決して腸胃を害することなし。尙注意ありたきは、市塲にて鬻ぐものは用ひ給ふ勿れ、是等は皆成熟して既に穀物となれり、亦甘味も失せたり、依て自園に作りたるもの、或は近所に出來たるものを得られよ、若し採て一夜を過さば甘味失せぬ。猶亦燒て食するにも三四枚の皮を殘して、成べく水分を蒸發せしめざる樣、蒸燒にすべし。

○家庭の養鷄（二）

（九）家鷄飼養の數　は始め一の母鷄が化したる、七八羽の雛を一群として放ち飼ひにせられたし。（婦人小供に）は、二拾羽位迄の飼養が適當ならん、夫より多ければ、管理に手數多くして、反て不利益ならん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(十)多數飼養の利害　は一概に云ひ難し。然れども去る廿一年より廿三年頃迄は、洋鷄各地に流行したり、之が專業者も多かりしが、一時の事にして程なく破產するもの十中の八九なり。若し邊傍に兵營、或は割烹店、或は養家の殘物、又は海濱に近くして小魚等安價にて得らるれば、多數の飼養も亦可なり。然れども成べく徐々に擴張せらる方甚だ安全なり。大飼養は第一飼料の廉價にて得らるゝや否やを確めて后ち、漸次企圖を擴め給へ。

以上十點を以て飼養前の注意を終りたり。因に謂ふ本邦にて養鷄の盛なるは千葉縣にして、同縣下より去る廿一年度、東京市へ輸入したる家禽は、六拾八万九千七百四拾七羽にて、此價金拾六万五千六百四拾三圓四拾錢なり、此內三分の二は千葉縣より輸入す、亦鷄卵は九千百三拾二萬個にして、此價金八拾二万千八百八拾圓、此內十分の五は千葉縣より輸入す。猶年々凡そ一割を增す。近年同縣下より市內へ輸入する禽肉鷄卵は、其高金六拾萬圓に下らず、此多額の物產は何の邊何人の手に產出するか。是れ同縣下に於て、三々伍々の農家の廢物を集めたると、農婆等が片手間に寺參り小遣を得んとして勞苦するが爲とにて、抑も此莫大の金を造り出すなり。國家濟民の人是を輕視する勿れ。故に余が希望して止まざるは、本邦戶々のホームに、五七羽宛の養鷄を樂しみ試みる婦人の大ひに增加せんとなり。

種卵の選擇法

(一)種卵　を撰ぶには取分け注意せざる可らず。何程飼養の法宜しきも、親鷄の血統善しからずば、其結果悪し、故に母鷄の多產にして欠點なく、且つ配合宜しき一雄五雌迄のものを、種卵に撰び給へ。

(二)種卵の生在期　は夏期は三週間、冬期は四週間を過れば死す、故に成べく二週間內のものを孵化せしめらるべし。

(三)種卵の新古の見譯　は新しきものは殼皮粗糙にして、古きものは殼皮乾燥し、且其質緻密にして稍光澤あり。

(四)透明なる種卵　は新鮮なると洽く人の知る所なり。然れども殼皮の薄きものは孵化中缺損の恐れあり、殼皮厚きものを選ぶべし。

(五)種卵雌雄の判別　は種々の法方ありて、其內初心者に譯り易きは、一端の鋭にして稍や長きを雄卵とし、一端鈍鋭に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して固きを雌卵とす。

○子供に醫者

一人の母

母親は、其子が出入の醫者に親しむやう常々心掛け、些細のお談しの中にも、此の心得を忘るべからず。然るに、中には、馬鹿らしき母もあるものにて

坊やそんなヿをしてますと、先生のお藥をのませますよ

など言ひて、自然、子供に醫者を恐るゝ心持を懷かするヿあり。夫故、病氣重り、いざ丁寧に診察を請はんと云ふ折に、子供は、恐ろしがりて騷ぎ、綿密の診察を受けがたきヿもあるものなり。母たるものは、かゝる些細の事にも、平素より心掛ふかゝるべし。

醫者の診察を受くる時、なみ／＼の子供が甚はだしく嫌ふは、喉を見せるヿと、胸を開くヿとなり。何か恐ろしきヿをせらるゝものと感ずるか、大聲あげて泣き、身をもだえて反對す。之が爲め、喉をいよ／＼痛むるヿあり、胸をいよ／＼激するヿあり、切角の診察も、初に於てすでに其効の幾分を減ずと云ふべし。左れば、母親は、平素より之を慣らし置くべし。折々砂糖を少し與へて、口を開かせるやうにし、又た、傍乳して横にねる時などに、特更ら胸を開かせるやうにし、時々斯る手段によりて、母親が、口を開けよと云ふ時には雜作なく開け、其胸を開らく時に異狀を感ぜざるやうにならし置くべし。

ヒマシ油は、乳の中に混ぜ、何か香ひあるものを少し混ぜて飮ますべし、ガラスの管にて飮ますも可し。

極く苦き藥を飮ます前には、氷の塊少しを口に含ますべし、口中、感じを失なひ、藥の苦味を忘るゝヿ妙なり。

○つや消しガラス家内製法

尋常のガラスの戸などを、俄かにつや消しガラスに直さんとするに、即功の妙術あり。即はち、糊を薄く濃きたる中へ、ガラスを數分間入れ（又は糊を塗るもよし）、出し少し乾かしたる所ろへ、心に適ふ線を引き紋樣をつくる也。

家政の事に關する問ある人は此欄に向け送り玉へ
問は其儘玆に掲ぐるヿあるべし、經驗ある人は答へ玉へ

正誤　前號家庭の養鷄の拾四頁八行目に。皆等しく二十一時間さ、あるは。皆等しく二十一日間、さ正す又十五頁の拾六行目に。又日數も多ければ、さあるは。又手數も多ければ、に正す。畜鶴子。

史傳

新來の客、ウエスト孃

もみぢ

七月廿二日米國を發し、途にハワイ島に立寄りて禁酒事業を視察し、其后直ちに我國に來らるべしとの音信夙とに瀕々たるウエスト孃は、多分明る四日横濱入港の船にて來着せらるべしと信ず。

孃は、現に、イリノ井州婦人禁酒會の會長にして、万國及び米國の婦人禁酒會が有力の器關とする雜誌、ユニオン、シグナルの主筆なり。此雜誌は、毎週吾等が手にして愛讀措かざる所ろのものなり。ウイラード會長が、高雅妙麗の短篇、レビット、アッケルマン兩女史が、全世界遊説中の報告文など、皆な嘆誦限りなき有益の文字にてはあれど、此等を綴りて其間にきらめき渡る一種流暢自由なる雜説は、大抵ウエスト孃の手に成るものなるべし。吾等久しく之に接して愛讀せしが今は即はち其手を握りて之を歡迎せんとす。

孃は、イリノ井州のガレスボルグに生る、其祖先は、ノックス大學創立者の一人なり、由緒正しき名家と聞え、父母の訓育宜しきを得たりければ、孃は幼けなくして記臆衆にすぐれ、身躰壯健にて、年十七早く大學を卒業し、后ち此のノックス大學の校長となり、九年間妙に之を管理せられたり。

奴隷廢止の事には周旋盡力淺からず、南北戰爭となりては、衛生委員の一人として看護に日夜を分たず、更に軍隊附の書記役となりて兵士の間に周旋せり。

孃がシカゴに出でゝ、ユニオン、シグナル雜誌の主筆となるや、間もなく又彼の婦人記者等の發起になりたる有名の「婦人出版會」の會長となり、實際に於て米合衆國の新主府たる此の大都會に多き婦人記者の先輩とはなりぬ。

皆これ、孃が非凡なる伎倆あるによると勿論なれど、其の温雅にして親しみ易く、而も一種の神采ありて能く人を心服せしむる所ろ、何人をも引付けて自から離れ難からしむるに由るとは言ふ。吾等亦久しからずして孃と會せんとす。婦人矯風會及び其他の禁酒主義の多くの會員方が、日夜雲を望み、帆を待ちて、歡迎せらるゝは故あるとにこそ。

右文中、禁酒會月報第二十號に負ふ所あり之を謝し且つ彼誌を紹介す

摘要

○女子の風儀

教育時論は、去廿五日發兌の第二百六十五號に至りて、其の「女子の風儀」と云へる四篇の社説を完結せり、其大旨は左の如し、

吾等は、我國の女子に對する教育の方針は、德育七分、智育三分の割合を以て、適當なりと思惟する者なり。而して、其德育は、我國現時に於ける社會の狀態に照らして、甚しき不都合あらざる限は、成るべく、舊來の德育法に依循するを是とす。而して、其舊來の德育法に依循するを是とする所以の理由は、既に前號の誌上に於て、論述したるが如く、我國社會の仕組は、家族制度を基礎として成立し、上は皇室より下人民に至る迄、宗の仕組は、皆家族制度の精神を以て一貫し、從て女子に對する教育法の如きも、皆此精神を基礎として組立てたる者なれば、今俄にこの風を破壞するが如き德育法に依るときは、我國立國の精神にも戻り、且弊に堪へざる者あらん。然り而して、智育の如きは、日進の教育法に依らざるべからざると、固より論なしと雖、然れども、敢て此を以て女子の獨立を得せしむるを目的とするに及ばず。唯人の妻たり、人の母たるに欠くべからざる丈の智識を備へ、日常普通の事務に應じて、適宜に之を料理處決し、以て一家の安寧幸福を維持し得るを以て足れりとして、其餘を望まざるなり。」

而して、耶蘇教宣教師の設立せる女學校の教育法は、全く此方針に反くが故にとて大ひに之を非としたり。

○婦女問題に關する書籍

去廿五日發兌の東洋學藝雜誌第百卅一號に、在獨逸國の入澤達吉氏が、國民の友第百三十六號に載せたる有賀長雄氏の「婦女問題に係る余の藏書」に倣ひ、其所藏の書を列擧したるものあり。其書名丈けを左に掲載す、

エ、ライヒ氏の「婦女に就ての研究」　同氏の「婦女獨立論」

同氏の「婚姻論」　デ、チーグレル氏の「社會問題は一の道義問題なり」

ルイーゼ、ビヨヒチル氏の「婦女」　ア、ベーベル氏の「婦女及社會主義」

ヘドヰヒ、ドーム「婦女の學問上の自由」　同氏の「婦女の本性及權利」

エ、ドユーリング氏の「婦女に高等なる職業を授くるの方針及大學の教授法」

マチルデ、リヒヤルド、ストロムベルヒ氏の「婦女の權利及義務」

同氏の「女性の市民」　フラアゲンスタイン氏の「女兒の職業撰定」

ウエヒテル氏の「婦人の職業」　ワイス氏の婦女の「本質及命定」

ホルツエンドルフ氏の「社會及經濟上より婦女の地位の改良を論ず」

ウヰルヒヨウ氏の「職業に對する婦女の教育法」

ビトキン氏の「現時の女工及婦女問題」　ケルレン氏の「婦女とは何者」

キユーチ氏の「女子の大學に於ける修業に就て」

チイゲン、ツチルフ氏韓「社會に於ける婦女の地位」

チイゲン、ペイ氏の「上古の婦女」

此他、其名を聞きて未だ其書を見ざるもの十七種の名を列擧したり。

○女子の大學に入るを許すの議及女醫に就て

同前の雜誌中に、同前の人が、右の二題にて、輓近獨逸國に於ける景況と、女醫に關する各國の景況とを極めて周密に叙述したるものあり、一讀參考するの益あり。

○新內閣員の年齡

伊藤伯（五十二）。黑田伯（五十三）。山縣伯（五十五）。大山伯（五十一）。

井上伯（五十八）。仁禮子（六十二）。陸奧氏（四十九）。渡邊氏（四十七）。

後藤伯（五十五）。河野氏（四十九）。

右十名、平均年齡五十三才

○家禽の飼料

家禽を飼養するに方りては其餌料の適當なる分量を與ふることを怠るべからず又成るべく品質の優れるものを撰ぶを要す凡そ如何なる餌料たるを問はず腐敗だにせざれば各滋養の効あれども養分の多少は其種類を組成する所の成分に從て差異なきを得ず而して餌料は其最も養分に富めるものを供するを得策とするは明白の道理にして是れ啻に卵の産出をして多からしむるのみならず又能く其肉に滋味と脊緊とを與ふればなり産卵の多寡は第一に鷄の種類に由ることなれども如何に多産の鷄種にても身躰孱弱ならんには其本性を全うすること難く又養分饒多なる食餌を給するにあらずんば其能を顯はすに由なからんとす燕麥及大麥は多く蛋白質纖維質グーテン等に富み筋膜を發達せしむるに適するを以て雛鷄の最良飼料たり玉蜀黍は殊に脂肪分に富み主として体溫を與へ身躰を肥腻せしむるの用をなす小麥及蕎麥は膠質及蛋白質を包含して最も卵を産出せしむるの材料に適す裸麥は滋味の穀物なれども雛鷄及老鷄は之を嗜食せず故に强て之を用ひんと欲せば挽き割りとなし他の穀物中に混和して與ふるを宜しとす而して粃は養鷄家が四季を通して最も多量に使用する低廉の好食餌たり其他魚肉昆虫脊草根菜等亦皆隨時に給與することは極めて必要なりとす（牧畜雜誌第八十七號）

○女子高等師範學校卒業生地方別

女子高等師範學校創立以來卒業生の地方別、及服務の種別、就職地方別等は、左表の如し。

師範學科卒業生服務及種別表

	卒業生人員	教育に從事する者	他の職を執る者	非役	死亡
小學師範學科	二六六	一二〇	三	一二三	二〇
高等師範學科	四五	四五	〇	〇	〇

明治十九年七月前は卒業生服務に係る規程なし隨て教育に從事せざる者多し同月以後は服務年限を定め五箇年間教育に從事せしむることゝ爲れり試に服務年限制定前後に依りて區別せば左表の如し

	卒業生人員	教育に從事する者	他の職を執る者	非役	死亡
服務年限制定前	二一一	七八	三	一一三	一七
同　制定後	一〇〇	八七	〇	一〇	三

師範學科卒業生人員地方別及就職地方別

	高等師範學科	小學師範學科	就職府縣別
北海道廳	一	五	六
東京府	八	八八	七〇
京都府	三	二	四
大阪府	|	三	一〇
神奈川縣	|	五	三
兵庫縣	一	一〇	五
長崎縣	|	四	二
新潟縣	一	五	一
埼玉縣	|	九	二
群馬縣	二	二	一
千葉縣	一	一六	三
福島縣	|	三	二
巖手縣	|	二	一
青森縣	一	二	|
山形縣	一	一	二
秋田縣	三	四	二
福井縣	|	|	三
石川縣	四	六	一
富山縣	|	二	一
鳥取縣	|	二	二
島根縣	|	二	|
岡山縣	|	|	二
廣島縣	一	一	|
山口縣	三	七	二
茨城縣	|	七	一
栃木縣	|	一	二
奈良縣	|	|	一
三重縣	|	二	一
愛知縣	|	三	二
靜岡縣	三	一五	二
山梨縣	二	五	三
滋賀縣	|	二	二
岐阜縣	二	三	|
長野縣	二	七	二
宮城縣	|	四	五
和歌山縣	一	八	四
德島縣	|	三	二
香川縣	|	|	一
愛媛縣	一	四	三
高知縣	三	九	二
福岡縣	一	二	三
大分縣	|	二	|
佐賀縣	|	一	|
熊本縣	|	三	二
宮崎縣	|	|	一
鹿兒島縣	|	四	|
沖繩縣	|	|	一
合計	四五	二六六	一六五

批評

國民の友夏期附錄畧評

雲峯

女丈夫

是國外漁史が創作せしにあらで翻譯ものなる可し。されば其結構に至つては譯者の責を負ふ可き所ならじ。故に全篇の趣向に至つては余は多言せず。只一言云ひたきは余り趣向單純にして隨て興味多からざるをなり。一言に云へば一少女がマラーを刺殺せりと云ふに過ぎざる可し。少女が法庭に於て審問せらるゝ所、實際斯の如くにてありしなる可けれど、さりさて殊更に長々しくものする程珍しき裁判にもあらず。少女がマラーを刺殺するの一段實に面白し。思ふに趣向の單純なるは此一篇が長篇の内の一節なるが故には非さるか。

文章に至つては敬服の外なし。今日文壇の名士多しと雖も漁史の右に出づる人なかる可し。其譯文めきたる跡少しも見ゆるなく平易流暢にものせられしは實に凡手にあらず。文法語格の正しき、和漢の語を適當に活用せらるゝ今日多く得易からざる文字なり。望むらくは漁史が自作を拜見せまほしかりき。そは舞姫に比して此篇は妙味少きを覺ゆればなり。

雛嫁

此篇は譯者の序に見ゆるが如くデツケンスの作にして極めて家政になれぬ青年男女が家もちせる有樣を寫せしものなり。是亦趣向に就ては云ふ可き所なし、其妙味は何人も知る所こさ更に云ふの必要なかる可し。譯文に就ても余は多く云はず、そは賤子氏の譯につきては小公子出版の時已に公評あればなり。當時の評者に尾して余も只稱讚の辭を述ぶるの外なきなり。然れども今更之をくりかへすも嗚呼がましければ今は省きつ。

明月

抱一庵氏の筆には一種獨得の所(妙と云はず)あるなり。長所のある所即ち短所の伏する所か。或人は之を見て妙と云はん。他の者は癖と云はん。如何なる所を然か

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

云か。曰く云ひ難し。氏の文を見る人は何人も然か思はん。此處彼處と殊に指摘し難きうち何となくゴツ／＼然として生素らしき所あるが如し。然ども氏も亦當代の文壇に一旗幟を建つるの人、亦云可らざる所に妙味あるなり。氏が閑中政治家一篇を著して一躍名家の列に加はりし所以のもの實に此にありて存するなるべし。此篇は昨夏の蟲天と比して却て見劣りせらるゝが如きは余の判定誤れる故か。全篇の結構布置は全然氏の創意なりと聞けど單に此篇を讀で公平に判斷すれば全然飜譯否直譯の如き感あるなり。何故に措辭のみをマリアス傳に取て他を創作せしか。亦何故に人名のみ外國の名を存せしか。何故に純然譯文とするか、若くは純然著作とせられざりしか。兎に角讀者の一人として余は不審に堪へず。亦作者の爲に惜む所なり。

惣評

こたびの三小説は奇妙にも著作らしき者少く(なしと云はず)大抵飜譯様のものゝみなり。勿論余は著作ならざるが故に不可なりと云はず。否諸氏が愈精勵刻苦以て外國の文學を輸入せんとを希望するものなり。只飜譯に偏して著作少きに至らざらんとを併せて望ざるを得ず。蓋し外國文學過重の弊は我文學の秀粹たる妙所を消失せしむるに至る可ければなり。但是鷗外漁史に對しては無用の言なり。文法語格の些事は以て鎖事ならず。日用往復文の如きは思想を通ぜば足ると雖も苟も文學者の著作若くは譯書としては望くは文法語格をも少しく正されたし。今度の諸篇中、女丈夫を除ては多少文法語格の誤謬あるを免れず。殊に抱一庵氏の作の如き甚だ多きが如し。余は此に一々擧げざる可し。願くは文學者諸氏少しく猛省あらんとを。然れども今日は實に文學界の亂世なり。嘗て思軒氏が歎ぜられしが如く今日の新聞雜誌中三行無難に書きたるものなかる可し。されば余は單に今回の諸氏にのみ云ふにあらず。然れども今日政論或は其他の論説を起草する人及び飜譯家抔に向て文法語格の正しからんとを望も到底能はざる可し。故にセメテは文學者たりけけは之を正されん事を希望するのみ。　八月下旬　妄言。

其他の二論文

大鹽中齋の哲學、德川家康の二論文、何れも面白く拜讀仕りぬ。中齋を一揆の張本人としては世間之を知るもの多かりしが、大哲學者(日本に於ては)たりしとは之を知るもの殆んど稀なりき。今之を世に示し給ひし井上君の賜亦有難き哉。德川家康は著者の云はるゝ如く全篇の五六分の一なる可し、未だ本領に入らずして已に甚く遺憾限りなきなり。其掲載の所のみを以て見るも著者が如何に家康を崇拜し、亦如何に彼につきて精細に取調べられしかは明白に見ゆ。尙殘篇の出でんことわれひと共に希望する所なり。此二論文に對しては余別に云事を知らず。別に此種の文字に對する評者世にあらん。故に余の評せざる事は冷淡なるが故にあらず、常任者に讓らんと欲するのみ。

女報

可愛子編

●明治女學校の生徒募集　入學申込は、九月十日までなり、規則書を望まる者は、二錢郵券一葉を送らるべしといふ。

●女子成立學校　神田三崎町の成立學舍女子部は、今般女子成立學校と改稱し、臨時生徒を募集す。又舍長中原貞七氏は先日山形中學校に赴任せられたり。

●高等女子師範學校卒業生　高等女子師範學校卒業生總員は、小學師範科二百六十六人、高等師範科四十五人なるが、内教員を奉職するものは高等師範科に四十五人小學師範科に百二十八人にして、他の職を執れるもの小學師範科に三人、罷役百二十八人死亡二十人なりと、而して本年の同校卒業生は十五人にして、年齡平均廿一年八ヶ月なりと云ふ。

●貧民學校百合園　麻布區谷町は府下貧民の巣窟の一として數へらるゝ所なるが、ホイトニー氏は兼て之が爲めに盡力一方ならず、本年三月頃よりは、同所に講義所をも開きて、傳道に從事せられたり。仝所には赤坂日本基督教會に屬する信徒數名ありしより、同教會に屬する青年等も、此所に意を注ぎ居たりしが、傳道は已に其人を得たれば、今は其子弟を教育せざれば傳道もはかどらずと感じ、此に百合園てふもの設立されたり。資本とて別にあらざりしも、漸く一家屋を借り受け、毎夜讀書を教授し、日曜毎には安息日學校をも開きたり、毎夜集るもの四十八人、日曜の如きは八十名にも上りたり、當時酷暑なると團扇張のいそがしきに妨げられ集るもの二十餘名に減じ居れども、新島、古市の兩氏は熱心に教授に從事せらる。今日已に校舍狹隘を感じ、且貧困極まれる兒童なれば、筆墨書籍等すべてを與ふるの必要あれども、資金乏しきより、僅に青年諸氏の義捐によりて、維持さるゝと云ふ。赤坂區新坂町なる愛學舘は、生徒を集めて英漢數學を教授し、其收入を以て百合園に義捐せらると云ふ。

●日本バプテスマ婦人傳道會社　の設立に付きては、先頃おだやか紙上に見へしが、新事業は非難の集點か、世人或は迂と云ひ狂と稱へ、其成立を危む人もまゝありし由なるが、正しき者を助け給ふの神は之を捨て給はず、同會創立以來未だ數月ならざるに、五十餘名の會員と其他數多の金圓を寄せて贊成の意を表する者とを與へ給へりと、我等は之を耳にし深く感謝し、同會の盛大を祈ると共に、我愛讀者諸姉妹に入會を促して止まざるものなり、諸姉勉めよや獨立の傳道！諸姉助けよや獨立の傳道！(おだやか)。

今般左の諸姉は日本バプテスマ婦人傳道會社の目的を贊成し入會せられたり、而して該會社は假に仙臺市北一番町浸禮教會内に設けられたりと、

仙臺　奥山友子　　仙臺　大坂秀子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

仝　中島松代子
仝　奥山元子
仝　淺尾登里子
仝　中野目清子
仝　菅野三代子
仝　千葉松代子
仝　笠木さり子
仝　大坂賀代子
仝　江刺里子
仝　清野幸子
仝　大坂波子
仝　早坂よう子
仝　齋藤磯子
仝　齋藤せい子
仝　能谷よし子
仝　櫻田なのえ子
仝　田丸まき子
仝　中鉢多利野子
仝　小々高みどり子
仝　菅野きん子
志津川　西城つろ子
氣仙沼　及川艮子
仙臺　小々高きり子
仝　黑澤みよし子
仝　中川さみよ子
仝　田丸まつみ子
仝　山梨さだ子
氣仙沼　田丸さくえ子

仝　佐藤梅子
仝　庄子多利子
仝　大坂幸子
仝　鮎屋さき子
仝　佐藤いさ子
仝　佐藤さだ子
仝　淺尾雄子
仝　中鉢糸子
涌谷　石川よう子
ミス、ミード
古山やゑ子
菅野ぶん子
田代ちか子
大沼かつゑ子
安藤させ子
菊地よしの子
登米　川村梅子
仝　海老名はつ子
仝　海老名うた子
仝　海老名のぶ子
氣仙沼　國井ため子
根室　ミセス、カーペンター
仝　ミセス、パッシユレ
仝　ミス、カムミング
仝　安田さう子
仝　片岡なか子
仝　大沼ちか子
盛岡　佐藤かう子

●赤坂病院　の明治廿四年七月より明治廿五年七月迄入院外來患者幷收入經費なりと云ふを聞くに、左の如し、

一入院患者百九十一人　此入院日數二千八百五日
一外來患者六千七百七十八人　此治療日數一万五千六百六十七日
一收入金七百八十二圓九十五錢六厘
一經費金二千二十圓七十六錢八厘
差引不足金千二百三十七圓八十一錢二厘にて、是は内外有志者寄附金を以て支辨せしと、同病院は設立以後少からぬ慈善を施せり、若し貧困にして治療費を自辨し能はざるものは、同院施療券を得られなば無代價に診察施藥せらるべしといふ。(聖書之友月報)。

●ロース孃の歸國　久しく我國にありて女子教育に從事せられたる、女子學院のロース孃には、此度歸國せらるゝこととなり、九月三日横濱出帆のベロナ號に搭じ、歐州を經て米國に向はる。

●津田梅子孃　華族女學校教師の格にて四年前洋行し米國ブリン、モウル女子大學を卒業し、日本女學生學資募集に盡力して、既に八千余弗を集められたる津田仙氏の令孃梅子孃は、去十一日無恙歸朝せられたり。

●貞女と孝女　芝區高輪臺町一番地に仕立物をして居る森寄兵衛(六十一)といふは、五年前より中氣にかゝり身動きさへもまゝならず、稼ぎが出來ぬ樣になると、素より貯はへなき身なれば、忽ち其日の生計も立ざるを女房おかく(四十七)は、世にも稀なる健氣者にて、其人に代つて仕立物に精を出し、其日のくらし、藥り代、小遣ひ錢まで兎もかうもして取まかなひ娘おしづ(十一)といふを苦しき中より三田小學校へ通はせて、教育の忽かせにし難きを心得、家に歸れば教へ勵まして其日習ひし處を復習せしむるなど、毫厘計りも心屆かぬ隅もなく、おしづも子供心に母の切なき胸を酌み、世話を燒せず學校へ通ひ、家に歸れば病める父の枕元に附添ひて、藥りを飮ませ脊を撫で足をさすりて勵はれば、父もおしづの孝心を愛で、病苦も爲に忘るゝ計り、近所の者其子を教へるにも、常に此おしづをいましめの引合に出す程なりといふ、此母にして此子あり誠に聖世の一美談といふべしと。改進新聞に見ゆ。

●ウエスト孃を迎ゆるに付きて　來る四日來着に付去月廿日午後七時より、銀座會館にて禁酒會、婦人禁酒會、白標苦樂部、婦人矯風會其他有志者會集して、ウエスト孃來遊に付きて準備のため、種々協議したりき。

●ウエスト孃よりの來翰　近日の來客たるべきウエスト孃より、東京婦人矯風會々頭に當てゝ發せられし書狀の要に曰く

私事貴國に到着の日に爲すべき事業のため、準備の用意の都合も有之候間、現今貴國の有樣、及び如何なる種類の事業を爲さんとを御望み被遊候や當ホノルヽへ向けて御一報被下度奉願上候

暫らく以前のとにて候が、貴國の傳道の學校のとに付き一寸承わりしとも候ひしがかゝる學校の御座候へば、これぞ私の事業のためには尤も好き手づるかと存じ申候、然し其後何の報も承らず候間其邊のとは如何相成り居候や承り度存じ申候

我が愛する日本の姉妹等と、一日も早く顏を合すの喜びを得んと欲して、我の心は身にそはざる心地致し(云々)

右の如く申越せしかば、同會は根元正氏に依賴して返書を發しなきたりといふ。

●東京婦人矯風會よりシカゴ大博覽會への出品物　婦人矯風會がコロンブス大博覽會へ出品せんと協議の上、矢島會頭の手を經て西京へ注文せし日の丸の旗は、巾は縮緬大巾二枚にして、丈けは之に準する大旗にして、已に出來上りて矢島氏の

元に着したるが、白地に本緋の染め出し美事に出來たり。尙ほ附つき席物等も、製作中なるが有志の諸愛姉は更に續々出品物を御送附あるべし。矯風會が今日迄出品物準備のために使用せし金高は十三圓餘なり、又出品物は本月渡來あるべきウエスト嬢に托して送る心組なり。（以上三件、婦人矯風雜誌）

●名古屋淸流女學校　名古屋市東片端町なる淸流女學校は去明治卅一年の創設に係る、現今同校の生徒は八十有餘名にして、伊勢、三河、美濃等諸地よりの來學者も少なからず、又た同校にては、隨時淸流と名くる雜誌を發刊して、生徒の文章及び同校諸般の景況等を記載し、之を父兄及び女學篤志の人々に頒つ由。

●新潟女學校　今度新潟女學校に於ては手藝科を新設し、レース製造縫箔編物刺繡を教授し、普通科、豫科の生徒をして兼修せしむるのみならず、職業を學ばんとするものをして專修せしめ、學術實行併行の精神にて教育する由、且つ右教師として招聘せる靑木志計子は、海陸軍縫箔師沖村市太郎氏に就て縫箔を學ぶこと三年間、東京京橋區日吉町レース教授場に學ぶこと三年にして卒業し、嘗て命を承けて大日本博覽會、幷に佛國博覽會に出品し、又加藤代議士の母堂と子の設立にかゝる女子獨立女學校に於て、風間と刺繡とを學び、昨年同校を卒業せし人なる由、又生徒製造品は東京橫濱及び米國へ賣捌きその利潤を生徒に與ふると云（東北日報）。

●女學生の實務演習　仙臺市東三番町宮城女學校にては夏期休業を告ぐるに先だち、幹事佐藤陽一氏は、生徒を一堂に集めて、休校歸省中の心得として、專ら朝夕の食膳調理を爲し、歸校の上は其練習事項を報告すべしとの旨を懇諭し、以て他日一家を料理するの階梯となさんを計りたりしに、生徒は夫々歸省したるも、尙歸省せずして學校に殘り居る者九名ありしかば、修學旅行を兼ね之を花淵地方に派遣し日々順番を以て自炊すべき事を命じ、目下實務の練習中なりと。

●女學校の器械購入　仙臺市宮城女學校にては、今度教授器械百圓代買入れたりといふ。

●造花講習會開會式　は八月十日讃岐婦人進德女學校に於て、午前第八時より執行せられたるに、當日の出席者は總理谷森みや子、會長神原きよ子、理事眞砂こよ子、野口やを子、河野さく子を始め、會員五十餘名、講習員卅五名にて、會長は同會開會の趣意並に東京女子職業學校造花の盛なると等を縷述し、又講師加藤かう子は造花講習の手初及諸器械の準備を爲し、彌よ十一日より講習を爲すとことなり、一同散會したるは同十二時頃なりしと。

●高知婦人實業會　全會は八月十七日午後第二時高知市本町三丁目廿四番邸に於て開會式を執行されし由なるが、其の會則は左の如しと云ふ、

高知婦人實業會々則

一本會は靑年婦女の爲め順知の職業を教授幷に一般需用者の利便を計り裁縫機織の二工場を設け其依賴に應じ勉めて丁寧敏速に調製するを以て目的とす

一本會は當分高知市廿四番邸に設置す

一本會の教授は當分織縫の二課とす

但讀書算術和歌茶の湯活花其他行儀作法等に係る藝業は生徒の請に應じ特別の方法を設け之れを教授することある可し

一本會の業務を擔任し又は幇助し本會に出席し若くは出會せざるも庶般の協議に參與し本會を維持する者を本會員とし單に本會の目的を贊助する者を贊助員とす

但會員及贊成員は必ず何人に限らず男子にして本會を嘉贊するものは可成加入を請ふ可し

一會員贊成にあらずして每日出會して職業に從事せんと欲するものは本會に來談し承諾の上通會することを得

一本會は取締二名顧問若干教師若干助手若干會計二名を置く其の任期は臨時之れを定む

一取締會計は會員中より撰擧し顧問は會員男子中に依賴し教師は本會より聘用し相當の給料を支給し助手は本會より囑托す

一凡て本會に受込み調製するものは普通賃錢より幾割を減ず

一凡て調製の賃錢は其高何分の何を以て本會に引殘し會費に充つ

一本會員は本會の費途に充つる爲め每月一人に付き金一錢以上三錢以下を出さしむるものとす

一本會の生徒は授業料として每月二十五日限り金十錢を納むるものとす

但し生徒の都合により月謝額を日數に除し日納するも妨げなし

一本會は每月二回定期の總會を開き會務幷に計算等の諸報告を爲す

一臨時總會を要する事あらば其都度臨時總會を開く

一本會は會員の德義を普め職藝を奬勵せんが爲め每月數回講師技術師を聘し修身及女職等に關する講話會を開くことある可し

一會員又は生徒中不品行等により本會の體面に關することあるときは直に除名又は退會せしむ

一執業幷に授業等に關する細則は別に之を定む

●北海禁酒會　は伊藤隆一氏會長にて、熱盛に運動せり、同會の如きは、恐らく全國第一の禁酒會なるべしといふ。

●兩婦人の孝德を表す　伯州會見郡福米村大字東福原村阿部彌市長女ふさ子、同孫しな子の兩女は、貧家に生れながら孝養類ひなきものとなるが、同村に斯る孝女の出るは甚だ名譽なりとて、同村有志者高橋政年、河津利三郎の兩氏は、八月七日を以て同村井上寬氏の宅に於て孝德會を開きしが、當日は學校教員、役場吏員、其他有志者近隣より集會する者五十餘名、門前には大なる綠門を造り「德不孤有隣」の語を染め付たる幔幕を張り、無數の紅燈を點じ、午後五時會員一同着席するや會主は孝子父子三人を伴ひ入り、先づ高橋政年氏會主の資格を以て開

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

會の主旨を演べ、次で同村學校々長秋山傳藏氏、及び有志家渡邊駿氏、鄉安爲之、鄉安万吉太の諸氏、廿余人の演說祝詞ありしが、郡の內外來り來り觀る者堵の如く、各自感泣して之を賞せり、夫れより酒宴に移り、或は孝女と相献酬するもあり、或は老父を擁して頻りに其杯を望むあり、終つて散會せり、殊に當日席上會主高橋成年河津利三郎の兩人よりは、紬一反を孝女に贈り其德を稱したりと、猶席上に於て畑忠太郎氏が唱歌を綴り、各自に之を發せしめしが則ち左に掲ぐ、

凡そ此世に生れ來て人たる道を守るもの晨の星の數まれに伯耆の國の會見郡福米村てふ其里の阿部の家にそだち生ろふさ女しな女の孝德をほめはやされて有志家は孝德會を開きてし祝するとのうれしさよ天より受し其さがは鏡にかけてうるはしく昔の人も今人も耻らふ事のあるべきぞ孝の行后の世に永く仰ん君の名を、

是れ因伯時報の記する所、吾人は孝女を重んず、されど斯くの如き會を催すとを望まず、何ぞ況んや酒を飲むが如きとをや。

●廣告を出して妾を募る　山形縣山形市に黑田男爵太といふ人あり、年は四十二の厄にも負けず、家業豐かにして市中にても屈指の家柄なれば、諸人の尊敬尋常ならず、殊に風流の道にも心を委ねて、連歌、俳諧、軍談、淨瑠璃、碁將棋、茶の湯、挿花に至るまで何一つ知らぬことなく、最も左手書の名譽ありて、男振も優れ、其上政治上の事にまで軸きを置かるゝ人なるが、此程一人の妾を抱へんとて左の廣告を家の前に標札を打つて掲げたり、

年齡十七才以上二十五才未滿にして顏貌十人勝れ中等以上の教育を受け貯金五百圓を所持するものは妾に相抱へ候條望のものは速かに申し出らるべし

但し二十五才以上のものは假令千圓の貯金あるも採用せず

此の廣告を出して應募の美人を待つほどに、通行の人々打笑ふて、器量十人に優れ、殊に中等以上の學問もあり、且つ五百圓といふ資産ある婦人が如何に茶人なればとて、賤しい妾なんぞに出るものがあるものかと嘲けり合へりしが、世は樣々にて、玆に近在泉川といふ處に、小山田千代（二十一）といふ美人あり、父は仙臺侯に仕へて七百石の高祿を頂戴したる人なるが、廢藩の後今の所に引移り、幽かに世を送る內、父は去年の秋病死し後には千代女のみ殘りて、先年同縣師範學校へ入學し、昨年の春卒業したるが、今度黑田氏の風流なる標札に、何か見處ありと思ひたるや、仲人を以て妾たらん事を申し込まれしに、黑田氏も大きに喜びて早速に承諾せしが、このほど目出たく輿入したりとぞ、何れも一風變つた人々と見えると讀賣新聞に見へたり、矯風家、愛國者の最も注意を要すべき事項なる哉、筆を投じて慨然たらずんばあらず。

●函館藝娼妓品評會　相生町菅野某外二三名の人々が發起となり嘗て東京及び西京等に於て開催したるとありし如く、函館藝娼妓合併品評會てふものを催ふす由云々、と北海新聞に見ゆ、氣樂の痴人もあるものかな、此蠻の迷夢、一覺せざるべからず。

●遊廓營業者の前協議　關西各府縣遊廓聯合保安會にては、本月上旬を期し名古屋に於ては大會を催さんとの計畫ありしが、其目的は本年の帝國議會も追々間近になり、自然廢娼論の再燃もやあらん時は、一致の運動を爲さゞる可らずとて、早くも其方針を協議し置く爲めなりと。（京都）。

●英國人に對する起訴　長崎居留の英國人某は、其飼犬の爲め婦人を齧ひ入れて可か不倫の所業ありしとかにて、長崎縣廳にても打捨置くべきに非れば、種々取調べ中なりしに、最早充分の證據を擧げたる趣にて、近々同國領事廳へ起訴する筈の由、右に付同縣廳より今度其筋へ打合せの爲めに官吏出京したりと、八月三十日の時事新報に見ゆ、吾黨の愛國者よ、彼を懲らすと共に、我が風俗をして高潔善美ならしめんとを勸めざるべからず。

●明治二十四年長野縣下女學の槪況　◎尋常師範學校女子部の生徒は四十二人あり。

●明治二十四年千葉縣下女學の槪況　◎尋常師範學校女子部の生徒は二十四人あり◎私立幼稚園には五人の保姆あり。

●明治二十四年長崎縣下女學の槪況　◎尋常師範學校女子部の生徒は十八人あり同年の卒業生は五名ありたり。

●三重縣通信

◎三重縣女學校の地所　三重女學校は、その地所を縣立師範學校と同じく引き下げられんとて其所有主なる藤堂家へ請願に及びし處、同家にてもそれぐ考慮するところありしが、元來女子教育を擴張するは最も急務なるも、今日に於て借地料のため維持の困難を訴ふるは遺憾なりとて、特別の詮議を以て向ふ十箇月間無代價にて貸し渡さるゝとにせられし由。

◎女子の蠶業談話　さきに埼玉競進社の科程を卒ふて歸鄉したる阿拜郡小田村の森まさ子は、同村々長の紹介にて同村尋常小學校樓上に開きたる教育談話會の席上にて、養蠶に關する演說をなしぬ。

◎女の人口男の人口に超過す　津市の人口は

明治二十三年　男。一二、八〇四人　女。一三、二八四人

明治二十四年　男。一三、四一六人　女。一三、六三七人

即ち廿三年にては四百八十人、二十四年にては二百二十一人、女の人口男に超過す。

◎工女に賞狀を與ふ　員辨郡養蠶組合より、同郡川島大十郎外七氏が所有する各製糸場の技藝優等なる工女へ、役場の手を經て賞狀を與へしとぞ。

◎養正同窓會女子部　養正同窓會は男子部と女子部とに分れ、別々に隔月例會を開き、春秋の大會のみ一處に會合する習慣に、大會毎に少なくとも女子十名位の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

出席者ありしに、本年八月の大會には一名も出席者なかりし、こは男子部が兎角跋扈して重大なる議事にても女子部に相談せず、勝手に議决するとありしにより、かく女子部の不平を醸せし由、是に由り目下仲裁に盡力中。

●鳥取通信

山陰道通信中鳥取英和女學校卒業式の景况の一項相違の所有之候間御訂正被下度候

第二回卒業生預備科撰科本科とも八名本科に五名撰科に一名預備科に二名なり即ち

本科卒業　多辻すか　村部よし　岡垣さし
　　　　　織田ます　小竹たつ
撰科　田中たろ
預備科　西尾ひさ　吉田あい

明治廿五年八月十五日　鳥取英和女學校幹事

●高知縣通信

◎高知縣教育會は、過日來其の議員會開會中なりしが、縣下青年女子教育を一層盛大になし、高等普通學を授けんが爲めに、尋常中學女子部を廢止し、一つの高等女學校を設置する事を决議し、亦た其校長教員等の兼務を止め、專任校長を置き、又た各科專門の教員を置くことを决議し、其建議書に一ヶ年の校費豫算書を添へ、會長松村如蘭氏より丸岡知事及び縣會議長へ建議に及ばれたり、但し學科を四學級に別ち、四箇年の卒業なりと云ふ。

◎尋常中學女子部に於ては、新入學生の入學試驗中なりしが、二十名の及第者ありたり。

◎高知教會員吉川李次郎氏は、本年五月ハンカチーフ刺繡場を設置し、工女百名に刺繡せしめ居りしが、今般更に高知女子職業學館を設立し、讀書、裁縫、刺繡、の諸科を置き、去月其開校式を執行し、目下三十名の生徒を養成し居らるゝ由。

◎高知市内に尋常小學校四校あり、各校附屬幼稚園あり、各校に尋常師範學校女子部卒業生を二名づゝ採用し、訓導、保姆となし居れり、亦た市内近接の村に、尋常小學校七校あり、各校必ず二名の女教員ありて、或は訓導となり、或は保姆となりて、兒童の教育に從事す、第一高等小學校には六名の女訓導ありて、各學科を擔當し居れり。

●支那婦人の數　は一億二千六百万人ありといふ。

●女醫許可に關する醫學會の議决　英國ノッチンガムに於て開きたる同國醫學會に於ては婦人の醫と爲るを許可することに議决せりと云ふ。

●ハワイの女王　ハワイの女王は近頃ホノルヽに於ける婦人基督教禁酒會に加勢し、彼等の事業を許可する所ありたり。且つ女王は自から禁酒せらるゝのみならず、其饗應の席にも之を用ひず、兼て好まれし舞踏の如きも之を避けらるゝに至りたりと云ふ。

●スペインのクリスチナ女王　は良人アルホンソの名を取り名けし一千余名の小兒あるを聞き夫等の兩親に幼兒の衣服銀食器並に美麗なる巢卵を送りしと云ふ。

●現今フランスの大學にて勉學せる婦人は百二十一人にして内十八人はフランス人なるが殘り百〇三人は露西亞人にして醫術を學び居るとなり。

●英國女王　ビクトリヤ女王が國會に於ける演説中に曰く不德なる僧徒が犯せる罪惡より教會を清むるの權を監督者に與へん事は欣びて允准せんと。これ唯に女王の幸福となるのみならず教會に取りても亦大に利益あるべし。

●英國の實業婦人　英國商業聯合會に屬する婦人五万八千人ありと云ふ。

●男女同等國　アインランドは人口七万三千にして男女ともに同等の尊敬を受け、又同等の權を以て撰出する所の代議者によりて支配せられ、男女の差別なく小兒は皆其母によりて教育を受け島中一人の愚昧の民なく七才に至る時は讀書算術を爲すにたゆ。斯く撰擧權を所有する母によりて教育されたる國民には囚徒も巡査も盜賊もなく非常に富有なり。又疾むべき貧富の懸隔絶えてなく質朴廉節淸潔聰明の人民のみとなれり。故に若し爰に謹愼の政治家ありて自國の婦人に自由を與ゆるを以て恐懼すべきものありとせんか、乞ふ撰擧權を有する此國の婦人七万三千人の間に爲す働きの如何を觀察せよ。

●女代言師　英國には二人の女代言師あたり是れ未曾有の事と人も言ふに米國合衆にては既に博士の稱號を滞びたる二婦人あり。共にアイルランドの生れにして其一人はフランシス、グレーにしてベルファストのウィリアムグレー氏の令孃たり千八百九十年に其稱號を得たり。又の一人はグレー孃と同じくベルファスト、メリデスト大學に留學せし人にして、其名をレチトア、ウワルギンクトンと云ふ。

●女子と神學　ハアーバアート神學校例年の校友會は去六月二十八日の會議にて最必要の件を議决せり、そは婦人の入校を許容する事にて即ち婦人は撰科生として講議を聞くとを許されんとを幹事に勸めん爲め十人の議員を撰びて其の請願の成功せんとを决せりと。

●倫敦新聞の載する所によればヘンリー、クマーセット孃は「ホワイト、リボン」と名くる一の婦人の爲の新聞を發行せんとて既に其準備出來たりと云へり。孃は主筆者として筆を取るゝは勿論なるが別に經驗ある女記者を招き内外の別なく婦人に關係ある事を載せ弱き女性の幸福を謀り報ぜんとするにあり。倫敦ブリグハムの通信者は此新事業の基本金は一ポンドにして既に確實なる見込ありとベッドホオールドの公爵夫人、カルリスル、ツイラト孃ハンナ、ワイタルスミス夫人其他有名なる婦人達は此の運動のため大に盡す處あらんとす。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

孤兒之友

茜糊子編

孤女學院の略歴

抑も孤女學院は昨廿四年十二月三十日、假に學院を下谷西黒門町に設く、當時二兒を救育せらる、夫より本年一月廿三日同院志方之善氏、震災地孤女救濟の爲めに同地に赴れり、當時偶々岡山孤兒院其他に於ても、之が救濟に當りたるも、是皆六歳以上の者にあらざれば救養せられず、因て孤女學院は各孤兒院に入院の資格なき、無告の憐むべき孤兒が救濟に當れり。當時嚴冬烈風肌を殺ぐ、或は雪中を冒して竹ケ鼻に至る、同地基督教徒の假病院へ永く入院せる一婦あり、震災の時倒屋の下になり手足を碎かれ、殆ど瀕息の通ふ耳。然るに此婦人震災前に妊娠せしかば、月滿て一月下旬に女兒を分娩せり、然ども素より重症の患者之を養育するに耐ず、加之手足も氷らん酷寒の季、可憐の兒が目前死に瀕せる、何人か忍びんや、遂に産れて僅か十五日を經たる者を救養せられ、他に猶出産後二ヶ月に滿たざる者をも、總て拾五名を引連終に二月十四日歸途に上れり、志方氏が雪中の旅行當時の困難思ふべし、氏が着京は夜の一時頃にして、電報の通達遲滯の爲め、學院に於ては氏が歸京の日を知らず、深夜歸院乳兒に豫念なく頗る困難なりしと云ふ。爾後彼の乳兒が養育の難事察するに餘る、此際乳母を得るに困窮なる、明治女學校の荻野女史連夜乳兒の世話せられ、孤兒の友も亦乳母を各信徒の内に求めんとするも得ず、止を得ず之を他より雇入たり、其后幸に慈多博愛の手によりて日増成長せり、

而して第二度目には震災地孤女四名を、三月九日幸便ヤグマン氏歸京の日之を迎へたり、其后猶追々入院兒の數を増し、今は手狹にして萬事不都合を感じ來れり、故に三月十二日王子村に亦假院を設き、爰に移りて居ると廿有九日◎四月九日元瀧の川村の新築に引移りたり、當時孤女が教育其他に當る者三名なりき◎四月下旬明治女學校卒業生矢野友代子氏同院の爲めに力を捧ぐ、是れ實に同院の爲めに祝せり◎猶亦王子村の信徒永井某氏一戸舉て同院に屬す、同氏程なく病を得て轉地療養せらる◎頃て學院に四月下旬より、種々の病兒闖入し大に兒等を苦しめたり、續て二兒ジフテリヤに罹れり、因て三澤默治郎氏の周旋により、大學病院小兒科に入院せり◎爰に歡喜にたへざるは、彼の入院せる二兒が孤女學院に養るゝと僅々二ヶ月余、此少日子に大なる神の感化と學院の氣風を享け居れば、自然入院の衆童に異なりて禮儀端嚴一種謂べからざる風德を備へ居れば、之が看護婦等大に驚けり、尚看護婦の孤女を愛するや切なり、余が屢々病室に至る毎に之を見聞す。

偖大須賀氏は曾て築地武校に關係を有せり、過般來其校を辭するに付、殘務忙しき爲めに睡るを僅か二三時間、友人忠言屢々なるも萬止むべからず。遂に病を求め、氏も亦數名の孤女と枕を列べたり、續て矢野友代子柴田春子等も又床に就く、我同志大に憂慮し、明治女學校よりは生徒中より數名の有志者が、看護の勞を執らる、又嶋崎春樹氏も數日患者の枕邊に親しく慰めらる、猶亦友の藤井も大須賀氏病氣中同院を守るの見込にて行く。而して大須賀矢野氏等は六月廿四日帝國大學流行病室へ入院す、續て柴田氏も入院す、氏等は劇症のチブスなりと謂ふ。殊に特記して感謝に堪へざるは、愛憐會の三澤默治郎氏なり氏は去る五月以來、隔日に來院診察せられ、其懇切熱心感謝するに餘りあり、五名のチブス患者外科殊に皮膚病の如き全院皆患者なり、然れども一人も斃るゝ者なく、斯く全癒したるは慈父の惠大なるは勿論、氏の盡力亦氏を徹したる奇跡なり、然し當時三澤氏の心痛想ふべし。

大須賀氏等入院后、明治女學校有志者及三澤荻野醫師等と協儀あり、按するに斯く種々の疾病の發生するは必ずしも、其病毒の根元なかるべからずと、遂に學院に大毒消法を實施する事に決したり、依て明治女學校有志者は、六月廿八日以來夜を冒して、孤女の新衣及蒲團を新調し、略ぼ移轉の豫意調へり、其后家屋を求めん爲め奔走するも得じ、止を得ず一小家を借入て六月三十日漸く爰に健兒を引移せり、亦拾數名の患者は本院の近傍に一家を借りて玆に移せり、其后本院に大消毒法を行へり。

亦此際孤女學院を助けられたるは、同志社出身の齋藤中一氏、立教女學校教師林歌子氏、荻野氏よりはづき子氏を遣し、慈善看護婦會よりは、岡野春子氏を派したり、何れも晝夜熱心に看護の勞を執られ感謝に堪へず、

却て又六月三十日避病の爲め移轉せし家屋、甚だ狹隘に耐へ難し、故に七月三日更に一家を借入玆に移る。爰に大須賀氏等と等しくチブスに罹りたる四兒今は自宅にて全癒せり、斯く速に癒たるは看護の諸氏の丹精に由てなり、此外に同患者二兒は六月廿七日帝國大學へ入院せしめられたり、

七月十一日本日教所出來したり、建坪廿七坪余二區に別ち一を教所に一を幼稚園に當つ◎亦横濱無名氏は留守居の藤井に宛て懇切なる慰問書を發し金二拾圓を添へ、拾數點の衣類を贈らる。

七月十六日は多くの感謝に滿さる、待遠かりし大須賀矢野氏退院せり、曾て聞く帝國大學に於ては、初め大須賀氏の入院せられたる時、同院の風說は到底氏の全癒は難しと迄吹聽せられたる人の、僅か三週間余にて退院せられたりとは、近來稀有の速癒なりと、是れ余等が目前の奇跡なりとす、余は是を偶然に付せず、熱誠博愛の兒姉等が祈りの結果なりと信ず、其后大須賀氏は矢野氏と共に横濱本牧に勞を醫す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

七月廿三日藤井儀慈箱根に至る◎此間は明治女學校の犬養銓之助氏擔當せられ、大に心力を盡されたり◎八月二日藤井歸院す◎八月九日竹中某女史、孤女學院の爲に働かんさて來らる、先づ大賀須氏歸院の日まで助けられんとを請ふ、女史は多分永く當院に働くの人ならん。

當時孤女學院に於て又經濟上一の困難來る、殆ど餘財なし、然ども心して此試惑に答ふ、今此院は一の鍛練ある時さ信じ内に祈りて外に求めづ、醫へ明日の物なくも未だ一食を欠ず、若し與へられずも野の蜜を喰はん、野の蜜枯るゝも天のマナ降らん、我等總てを與ふる神に得◎七月廿八日大須賀氏歸院せらる、藤井は大須賀氏歸院に付引取たり。

現今在院兒は、總て三十一人之が世話する者四人曰、大須賀永井二氏岡野竹中の二女史なり、又衛生上の都合により兒等の室を一號二號三號の三室に區別して、各室十名に別居せしむ此内より室長副室長を舉げ、諸事を掌らしむ、亦各室に大人一人を添へ監督す、且亦現今孤女の學科は

高等小學一年生　一名　尋常小學三年生　二名
尋常小學二年生　二名　同　一年生　拾一名

以上ば孤女學院の略歷にして、同院が今日計畫しつゝある事業の如き、亦將來の希望の如きは他日之を敍するの時あらんさす。

○岡山及名古屋震災孤兒院の報告

は常號附錄として別紙を添ゆ。

孤女學院報告

第五月分收入

金廿錢　無名氏
金壹圓　志方之祐乞與利氏
金壹圓壹厘　志方吟子
金五拾六錢三拾四錢　在米有志米國人
金拾五錢　明治女學校齋藤氏
金四拾五圓三拾六錢五厘　婦人レプタ會音樂會收入金
金廿錢　戸川タツ子、仝ミチ子
金拾圓　立教女學校ゲップ氏
合計金百拾四圓貳拾五錢六厘

●支出

金壹圓六拾五錢　桑其他苗代
金二圓五拾錢六厘　器具代
金貳圓廿五錢　みろく一ダース
金五圓八拾貳錢五厘　肉類八百屋物
金三圓二拾二錢九厘　石油味噌醤油類
金廿二圓拾七錢五厘　米十俵代
金貳圓三拾七錢九厘　炭六俵代
金六圓　乳母其他給料
金四圓卅五錢　醫師其他車代
金壹圓拾五錢四厘　藥價
金卅錢　新聞代
合計金五拾壹圓八拾壹錢八厘
差引殘金六拾貳圓四拾三錢八厘四月より繰越金五拾七圓拾四錢三厘
總殘金百拾九圓五拾八錢壹厘六月へ越高

一胸當　二拾六個　明治女學校有志者
一單物　五枚　同　某氏
一胸當　貳個　同　同
一玩具　數品　同　同
一單物　貳枚　德富氏
一襦袢　二枚　同　氏
一單物　壹枚　大倉つる子
一襦袢　一枚　同
一チョツキ　三個　同
一チリ紙　十帖　寺尾氏
一乳飲器　貳個　東京婦人老人會
一襦袢　三枚　同
一單羽織　貳枚　同
一前掛　壹枚　同
一シゴキ　壹本　同
一袷　貳枚　同
一胴着　貳枚　同
一手拭　壹本　同
一足袋　貳足　同
一單物　八枚　同
一女學雜誌　每週　女學雜誌社

六月分

●收入

金五拾錢　岡本夫人
金壹圓　婦人老人會
金四圓　茨木　板垣久米子
金五十錢　青山神學校　別所氏
金[illegible]圓　岐阜　箕浦宗吉氏
金九拾八圓拾六錢　在米　有志婦人
金廿五圓　ホイトニー氏
金拾圓　ビショップ、ウヰリヤヒス
金八拾七錢　明治女學校愛の睦會
合計四拾七圓〇三錢

●支出

金[illegible]圓[illegible]拾錢　ミルク二ダス
金拾三圓八拾八錢　米四俵
金七圓三拾四錢五厘　肉類八百屋物
金壹圓　屋賃
金貳圓五錢五厘　石油味噌醤油類
金四圓　乳母其他給料
金壹圓三拾六錢五厘　履物代
金拾壹圓五拾錢　蚊張代
金卅錢　新聞代
金壹圓九拾九錢五厘　器具代
金三錢九厘　紙、はがき
金四拾錢　白木綿
金六拾錢　引越人足賃
金卅壹錢貳厘　牛乳代
金五圓〇九錢三厘　藥價
金貳圓卅錢　病人用氷四十斤
金九拾八錢五厘　病人用雜貨
金拾三圓六拾三錢　醫師其他車代
金三拾錢　炭二俵
合計金七拾二圓〇三錢五厘
差引殘金七拾四圓九拾九錢五厘
五月より繰越金百拾九圓五拾八錢壹厘
總殘金百九拾四圓五拾七錢六厘

一單物地　寄反　青山英和學校別所氏
一袷　貳枚　同
一品洋藥　貳種　鍵龜德兵衛

一 帛物地 壹反 東京 婦人老人會
一 單物 三枚 同
一 袖ナシ 貳枚 同
一 胸當 三拾二個 同
一 シャツ 二拾一枚 同
一 氷袋 三個
一 洋藥 七種 同 深澤儀作氏
一 氷袋 四個 齋藤音作氏
一 女學雜誌 毎週 女學雜誌社

七月分

◎收入

金一圓 山口縣 富海 新藏氏
金五拾錢 坂春江氏
金廿圓 横濱 無名氏
金廿五錢 齋藤中一氏
金二百圓 所有財產賣却高
金拾七圓六拾錢 明治女學校取次
內
金貳圓 小島氏
金壹圓 無名氏
金壹圓 無名氏
金壹圓 増田、原氏
金八拾五錢 某校本科三年生
金七十錢 犬養氏
金五十錢 松田氏
金五十錢 八木氏
金五十錢 青木氏
金五十錢 吳氏
金五十錢 無名氏
金五十錢 吉田氏
金四十錢 無名氏
金卅錢 無名氏
金卅錢 無名氏
金廿五錢 無名氏
金廿錢 畔柳氏
金五錢 湯谷氏
金五錢 無名氏
金五十錢 某校第四回卒業生
金五圓 マリヤの友
合計金二百三拾八圓卅五錢

◎支出

金壹圓七錢六厘 屋賃
金拾二圓八十八錢 米四俵
金七圓四十四錢五厘 魚肉八百屋物
金五圓八拾八錢五厘 石油味噌醬油類
金廿二錢 炭壹俵
金四圓廿錢 溝堀人足賃
金壹圓九拾五錢 ミルク一ダース
金壹圓卅錢 蚊帳代
金七圓〇五錢 器具代
金貳百七拾三圓九十七錢 建築修繕費
金四圓 乳母其他給料
金六拾三錢六厘 毛糸
金壹圓卅七錢壹厘 教育用具
金七圓六拾六錢 岐阜ヨリ子供四人分旅費(三月分拂)
金卅錢 新聞代
金壹圓 王子醫師川越へ謝禮
金七圓九拾三錢五厘 藥價
金壹圓五十五錢 病人用氷九十五斤
金拾壹圓三錢五厘 反物綿代
金四拾五圓卅三錢五厘 入院料
金七圓廿四錢 醫師其他車代
金六拾五錢 檢溫器代
金壹圓廿八錢七厘 病人用牛乳代
金壹圓五十五錢 郵便其他病兒用雜費
合計金四百〇九圓廿錢五厘
差引不足金百六拾九圓八拾五錢五厘
六月ヨリ越高百九拾四圓五十七錢六厘
總殘金廿四圓七拾貳錢一厘

一 單物 拾四枚 星野愼之輔氏
一 腹掛 七個 同
一 帶 壹本 同
一 シャツ 七枚 同
一 蒲團 貳枚 築地 實氏
一 毛布 壹枚 同
一 單物 壹枚 同
一 腹掛 拾壹個 星野愼之輔氏
一 單物 貳枚 藤本晉治氏
一 同 壹枚 明治女學校原氏
一 素麵 壹箱 大工棟領井上氏
一 カミソリ 一丁 同
一 トイシ 一丁 同
一 單物 貳枚 上野伯母
一 菓子 壹袋 同
一 同 壹袋 和田すゑ子
一 豆 壹籠 岡野氏
一 ナマリ節 壹籠 同
一 菓子 三袋 無名氏
一 單物 貳枚 婦人老人會
一 菓子 貳袋 無名氏
一 單物 六枚 同
一 單地 四枚 同
一 腰卷 三個 同
一 端切 數點 同
一 單物 拾六枚 横濱 無名氏
一 同 貳枚 明治女學校有志者
一 菓子 壹袋 無名氏
一 單物 貳枚 森本氏
一 同 三枚 小田川氏
一 同 三枚 高瓦氏
一 襦袢 壹枚 同
一 單物 六枚 南みつ氏
一 洋服仕立シャツ 二枚 三澤氏取次
一 ヨダレカケ 貳枚 同
一 洋書 三冊 無名氏
一 金時計 壹個 星野氏
一 女學雜誌 毎週 女學雜誌社
一 菓子 七袋 七名の訪問者

明治廿五年八月
東京北豐嶋郡王子瀧の川村
孤女學院

去る廿二日發兌せり

女學生夏期號外

其題目下の如し

一休和尚 …… 大知子
一休は乾質矯激家なり
一休は厭世的宗教家に非ず
一休は宗教界の俠客か
一休は懷疑哲學家なり
一休は人世の半可通なり

故人 …… 無名氏
むかし半掃庵は奈良茶の煙に故人の魂を招き、これは故人を尋ねて母戀しの聲を聞く、

英雄 …… 山月子
彼は常に最も美なり
彼は變化無極の活文章なり
彼は誠涙活火の人なり
彼は天然を愛する詩人なり
彼は基督の良僕なり

孤飛蝶 …… 脫蟬子
花に飛ぶ蝶、宙宇に舞ふ蝶、此文を併せ見ば、味亦深し

怪しき木像 …… 暗光子
愛眼もて荒法師を親じ、無聲もて千載古豪を呼ぶ

望夫石 …… 夕軒子
夏の夕べの漫歩きに往きぬる春の物語、昔にしみいる乙女の微笑か濱の月魂

鎌倉紀行 …… 紫蕘山人
遊意所向既に人に異る、わび住居に鄉を思ひ友を憶ふ

松風夢 …… 禿木子
村莊門に客なく幽窓松籟を聽く、感湧出寫して此篇に在り

號外一冊六錢◉無郵稅　女學雜誌社女學生部

皇后陛下
明宮殿下
御覽濟の書

巖本善治妻譯

再版

(リツトルロード。フホントルロイ)

小公子

小供のよみ本

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遙する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですか、ネイ、と申たとか。考へて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御座り升。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故此珍重すべきまろうどを尙一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著者は近頃英米に轟き渡りて子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更に言ずも、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且尙ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁密書十四箇入の大本とし今日世に進め玉へり。
一冊正價三十八錢(〇)郵稅八錢也

(批評)〇十一月十五日讀賣新聞〇經濟雜誌五百九十八號〇巖谷季雄君〇十一月十三日報知新聞〇十一月十七日中央新聞〇早稻田文學四號〇國民の友百卅八號〇十一月廿六日國民新聞〇十一月十七日中正日報〇亞細亞廿二號〇護敎廿二號〇下田歌子君〇中島俊子君〇石橋忍月君〇一月十六日自由新聞

女學雜誌社

每月一回　後進　定時刊行

後進第八號

九月一日發行●一部金五錢●十部四十五錢●郵券代用一割增

●論説
奥羽人物論……櫻庭經緯
儒者の腐敗及其卓勵……長井行
腐儒論……齋藤栗堂
●寄書
風流韻雅……尾崎學堂
●雜録
野史談（由井正雪）……栗堂生
國文と漢文……ケ、イ、
露國義男艦隊の組織……
●文苑
俳諧百一集抄……
其他詩歌數件……
●評林
新刊批判數件……
●投稿
袋田記行……
鍋嶋閑叟公の詩……
壯士論……
●雜報は秋に入て益〻鋭に益〻嚴、短刀直入一氣堅軍を碎くの概あり

發行所　東京神田區裏神保町二番地　國士館

鈴木弘恭大人講述　附錄小倉てびき

第四版　百人一首講義

正價金廿八錢　郵税四錢

御高評を得たる百人一首注釋いよ〳〵多く第三版品切に成りたれば茲に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて百人一首それ〳〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得る至極重寳なり。

發兌元　東京麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

普連土女學校生徒募集

本校ハ來ル九月十二日ヨリ次學期ノ業ヲ始ム
本校ハ從來設置ノ豫科ニ入學シ能ハザル者ノ爲メニ假リニ科外一年ヲ設ケテ入學ヲ許ス
本校ノ授業料ハ當分左ノ如ク改正ス
科外一年ヨリ豫科二年ニ至ル　金七拾錢
豫科三年ヨリ本科三年ニ至ル　金壹圓
本校ハ今回女子日常普通學科ノ教授時間ヲ增加ス
本校ハ各學部ニ熟練ナル内外教師數名ヲ聘シテ懇切ニ教授ス
本校ハ高燥ニシテ眺望ニ富ミタル寄宿室ノ設ケアリ
入學ヲ望ム者ハ郵券貳錢ヲ送ラバ規則ヲ呈ス

東京市芝區三田功運町三十番地　私立　普連土女學校

廣告

右同人儀女學雜誌社、孤女學院、愛隣會等に關係ありと、吹聽致居候へ共、毛頭關係無之者に付此段廣告候也

明治廿五年八月　澁谷つち

藤井米八郎

妙蟲水

●田虫水虫には頗奇効あり ●代價郵劵代用不苦候

小瓶金八錢 中瓶金廿錢 郵送料金貳錢

齒磨喜久福老

●はのためによき藥はみがき

小袋金壹錢 小箱金二錢

●諸家妙藥類並ニ舶來和製シヤボン化粧品類モ販賣仕候

本舖 東京外神田松富町五番地舊御成道横町 寶丹支店守分堂 長尾民之助

立教女學校生徒募集

築地廿六番

從來ノ豫科本科撰科ノ外更ニ高等科ヲ置ク
入學志願者ハ九月十日迄ニ申込ムベシ
規則書ヲ要スル者ハ郵劵二錢ヲ送ルベシ

看護婦派出廣告

看護婦入用の節は御依頼に應じ本會より派出致可申候
但し地方へも差出し申候●貧困者は無給の事

東京本所區森川町壹番地第百九拾號
慈善看護婦會

照暗女學校廣告

大阪川口六番

本校ハ從前ノ科程ノ外(本科四年高等科二年)更ニ豫科ヲ設ク●今回女子教育ニ十數年經驗アル女教師ヲ增聘セリ●曾テ廣告セシ通リ九月七日入學試驗十二日ヨリ始業●志願者ノ便ヲ計リ始業后モ當分ノ内入學ヲ許スベシ●規則書ハ要望者ヘ進呈ス

廣告

或る信徒にて、活版職工洋服仕上職工、入用に付十四五歳の孤兒三人使用仕たしと申込あり故に是を各孤兒院に告く

廿五年八月

女學雜誌社內 孤兒の友

イヨー別品の玉ぞろひダワイ

一個にて十たび分 **定價一錢五厘**

此玉子ぬかは御婦人がたつねに御用ひのぬかへ藥を加へ玉子にてねりたるものにて御用ひの節は湯でも水にてもしめし手のひらにてすりおとし其手にて程よくはだにすりこみ手ぬぐひにてあらひおとしなさればはだはゆで玉子のむきたての如くうつくしくなりておしろいのり奇妙なり但し御つかひのあとは紅糸の所をかけざほ又は釘にかけおきいく度も御つかいなされべく此玉子ぬか一ッにて十日位も御用ひ相成候御徳用第一のぬか也○御進物用美麗なる折詰調進仕候

●玉掌露

一名玉のはだ　一瓶金六錢　大瓶金十錢

抑々この玉掌露は玉の如く透明にして中に香氣を含み皮膚を潤し艶を生ずる効能ある故に人々常に此露を手掌にたらし面部其外にぬりつくれば○のぼせる **○日にやける** となし○はだあれず **となし** す○きめこまやかにて○にきび○そばかす○あせも○ずさう其外總て惡きふきでものせず○しみを生ずるとなく又寒氣風あらき時は此露を常より大く用ふれば水使ひするとも○ひゞきれず○しもやけせず四季ともに皮膚の美艶をたもつこと誠に無類の佳品にして實に掌中の寶玉と云べし殊に三能しやぼんを御遣の跡にて御用なれば尤も効能多し

懐中良藥 たまかつら

紙製一錢五厘　布製二錢

主治　づつう●はのいたみ●うちみ●きりきづ●ひゞしもやけ●やけど●りよまちす其外諸々の痛みによし且婦娘の頭痛に惱める津液を以て痛所へ用ゆれば速に其効を奏し暗に清香を發し宛も桃花の朝に露を注ぎ牡丹の夕に雨を過せるが如く自ら美人の粧を作す實に奇製の良藥也願ば四方の諸君愛求を希望す

○元祖色白 ○くある **三能しやぼん** 一箇十錢　○日本第一おしろいいらず **白妙** 一瓶金十錢

○髪のこやし毛のはへる香油 一名ふけしらず **美人かつら** 一瓶金十錢

發賣元 東京銀座一丁目 つやぶきん美人かつら **本舗** 電話番號四百七十二 **佐々木玄兵衛**

各府縣下確實品販賣有名藥舖又は小間物店にて取次販賣仕候間御最寄にて御購求奉希上候也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

巖本善治君編

女學叢書 **木村鐙子小傳**

定價 金八錢
郵稅 金貳錢

島田三郎君の序に曰(前略)今を距る拾五六年前世人女子敎育を説く者なく婦人も亦中饋の職を以て自ら劃り兒子敎育の要務をも擧げて初めより之れ他人に委ぬる者比々皆是なり此時期に當りて婦人敎育の要を覺り唯之を口にせずして之を躬にし自ら學び又其子を敎へて以て家道を肅するに至るは是れ既に尋常婦人を以て之を見る可からさるなり特に其夫の遠方に在るに際し孤身能く衰零の家に幹するに至りては最も感ずへし余年十七八田口卯吉君と駿州の郷校に相知り其后君と前后東京に出て丶相往來す二人窮する甚くして學資乏絶を告ぐると屢々なり予君の居に到るに屋傾き壁破れて一見其家道の衰零を知るべし然れ共其待遇の豊厚は君の世計に過ぐるあるを覺ゆ怪みて之を他の友人に語るに亦然りといふ後に至りて其婦鐙子君が田口君の友を待つに意を致すによれるとを知れり予の鐙子君を親く知るは實に近年に在りと雖予鐙子君の知遇を得るは實に十年以前に在りて嘗て之を知らざりしなり田口君常に言ふ予の成立は姉の助による者多しと此言眞に然り今や田口君世に名ありて家道も亦興れり而して鐙子君は逝きぬ悲ひ哉(中略)嗚呼鐙子君の如きは之を花に比ふるに唯梅の是に當るを得へき乎(下略)

滴堂學人嘗て曰(前略)明治の世にありては老將の戰袍を脱て儒衣を着せし如く戰國未開の習慣を拋て婦人嬌風の主唱となり女子敎育を率先し孜々として惰らず死にいたりて後に止みぬ嗚呼鐙子のごときは亂るゝ世の女丈夫治れる世の淑女とやいはまし此はその古人も最難しとせる所なり況や白梅の雪に包れて其香を愈よゆかしく青柳の風に揉れて其枝の折るゝ事なき風趣あるかの婦人の貞操苦節に明治女流の師表たるに足ぬべし乞ふ此卷をひもとくもの輕々着過する事なかれ。

東京麴町區下六番町 **女學雜誌社**

女學雜誌第三百二十號より改正仕り同號より白赤の二種に別ちたれば五月限り帳簿上も**雜誌代金**至急御拂込相成度候。亦改正致度候間舊號迄の為替は**麴町郵便局**へ御振込被成下度候

女學雜誌社發送部

一 雜誌及び書籍代金二十錢未満は郵劵代用不苦候、郵劵は五厘切手一割增の事

一 雜誌及ひ書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價廣告料及無料廣告

○白赤双方合せ講讀の分

十二冊	前金	五十八錢	府外	六拾三錢
廿六冊(半年)	同	一圓四十三錢	同	一圓五十六錢
五十二冊(一年)	同	二圓六十三錢	同	二圓八十六錢

○白赤の内一方講讀の分

六冊	前金	三拾五錢	府外	三十八錢
十三冊(半年)	同	七拾三錢	同	七十八錢
廿六冊(一年)	同	一圓三十三錢	同	一圓四十三錢
一冊	金六錢	郵稅	金五厘	

一行	一回	(廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

○十行以上一割引。 二十行以上二割引。

○四十行同四割引。

但し不道徳なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く

○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲くるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部增さ定む。

發行所

東京市麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三